京城日報

九日夕刊

本紙定價 廣告料
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

◎ウヰルソン氏當選說

米國大統領選擧の結果ウヰルソン氏當選確定せりとの報あり前報ヒューズ氏當選は誤りなり(東京特電)

記者曰く 其何れか不明なるも取敢ず掲載して確報を待つ

◎鄭家屯事件解決督促

林公使は七日午後段總理を訪ひ鄭家屯問題を速かに解決せん事を求めたり(北京特電)

◎獨逸多數政治家の戰後策

露國に接近するの策を研究し日本の感情を害せざらんとす

過般獨逸を視察して歸來せるウオールド紙特派員スーオープ氏の談に依れば獨逸の當局者並に多數の政治家は戰後一大協同目的の爲めに獨逸は其の北方及び遙かに東方の二大强國と同盟し其の協同目的の貫徹に當るの時機に到來すべきを豫想し居れり斯くて英獨接近を有利なりとしシデルブリュツクローマン、バリンソの大有力者も今回の戰爭の爲め今後當分之が不可能となれる事を知りて軍事上並に商業上某々二强國と聯盟するの必要を感ずるに至れるなり目下獨逸は既に種々露國に接近するの策を研究し居れり又獨逸當局は努めて新聞紙が日本の感情を害するが如き記事を掲載せざる樣特別の注意を怠らず新聞紙に散見する日本に關する記事は多く日本が現戰爭に關して積極的行動に出で居らざる事のみを報道し居れり(紐育電報)

◎英船無警告にて擊沈さる

倫敦來電=英國海軍省はピーオー會社所有船アラビア號(七、九三三噸)が無警告擊沈の厄に遇へるを發表せり乘船者は全部救助せられたりと(紐育電報)

◎墺伊艦の互ひ擊ち

伊國運送船を攻擊せる墺國潜航艇は伊國驅逐艦の爲め擊沈せられたるが同驅逐艦も亦擊沈せられたり(紐育電報)

◎レロス島占領

雅典來電=聯合軍は造幣廠及びレロス島を占領せり(紐育電報)

◎莫大小業者大會

英國政府の莫大小禁輸に對し其解禁を期する爲十日全國莫大小業者大會を日比谷松本樓に開會す(東京電報)

◎山科伯薨去

伯爵山科言綏氏(八三)は八日京都に於て薨去せり(東京電報)

◎寺內首相西下

寺內首相は八日夜入洛九日福岡に向ふ(京都特電)

▲大阪通過 寺內首相は九日朝大阪驛通過演習地に向へり(大阪特電)

◎後藤內相西下

後藤內相は八日夜兵庫縣知事市長等發起の招待會に臨み九時二十二分福岡演習地に向へり(神戶特電)

◎李堈公御出發

李堈公殿下は九日午前八時三十分東京驛出發歸鮮の途に就かれたり(東京電報)

◎李伯一行歸鮮

東上中なりし李完用伯閔丙奭子金東完氏等の一行は九日朝入港の新羅丸にて釜山着同十時三十分發列車にて京城に向へり(釜山特電)

◎兒玉翰長通過

兒玉內閣書記官長は九日朝大阪驛通過京城に向へり(大阪特電)

◎判任試驗結果

本年施行せる判任見習試驗中總督府に於て直接擧行したる筆記試驗の合格者は八十一名なりしが更に口述試驗の結果合格者は六十一名となれり其の內內地人四十三名朝鮮人十八名にして右合格者に對しては既に總督府より其れ〳〵通牒を發せし筈なり

◎宇佐美長官歸任

內務部長官宇佐美勝夫氏は既記の如く九日午前八時三十分南大門驛著汽車にて歸任せり同驛には總督府並に所屬官署高等官民間有志等多數の出迎ありたり

◎閔長官歸京

東上中なりし李王職長官閔丙奭子は事務官金東完氏帶同九日午後九時南大門驛著汽車にて歸任す

◎李完用伯歸任

伯爵李完用氏は閔長官一行と共に九日午後九時南大門驛著汽車にて歸任す

◎赤愛職員囑託

赤十字社並に愛國婦人會にては今回左の諸氏に對し各頭書の通囑託せり

赤十字社朝鮮本部事務管事 荻田總務局長 事務取扱
赤十字社公州支部長 上林忠南道長官
愛國婦人會朝鮮本部評議員 小原農商工部長官
愛國婦人會公州支部長 上林忠南道長官夫人
同顧問 上林忠南道長官
愛國婦人會朝鮮本部相談役 荻田總務局長 事務取扱

◎地査委員會

總督府にては九日午後一時より第一會議室に高等土地調査第三部委員會を開き土地查定に對する不服申請の件に就き審議の上三時散會したり

◎東拓前重役は十日朝退京

東拓前重役吉原三郎氏、林市藏氏、井上孝哉氏、村田俊彥氏は十日午前八時三十分南大門驛發にて退京の事となれり吉原氏の容態は決して佳良と云ふ能はざるも林井上兩氏終始東京まで附添ひ行くべく村田氏は吉原氏等を途中まで見送りたる後引返して北行支那に赴くべしと

◎三理事に饗應

山縣政務總監は九日午後六時三十分より前東拓理事林市藏、井上孝哉、村田俊彥三氏を朝鮮ホテルに招待其の送別宴を張る、總督府側よりは宇佐美內務部長官、小原農商工部長官其の他度支部關係各課長等列席す

◎三本理事歸任

三線聯絡運賃問題に關する要務を帶び東上中なりし三本鐵道局理事は八日夜南大門驛著歸任したり

◎上林氏榮轉祝賀會

法政大學同窓會京城支部にては上林忠南道長官の榮轉を祝し九日午後六時より同氏を京城ホテルに招待祝賀會を開く出席者は中野稅務官、補原檢事、國友警視其の他の官民約四十名なり

◎仁川十月貿易

仁川港に於ける十月中の貿易狀況は時節柄米穀類の輸移出木綿其他織物、石炭、食鹽輸移入等の重要品は頓て激増し來れるが結局九月の二百四十九萬四千四百六十圓に對し二百九萬二千七百二十二圓にして差引四十萬千四百三十八圓の減を見るに至れり此れ九月に於ては八十九萬一千圓と言ふ巨額の人蔘を輸移出し十月は殆んど之れ無かりしに由る者にして此れを重要品別に見るに米は出盛期に入りたるを以て九月に比し十一萬圓大豆は三十七萬圓の增加にて輸移出品全體にして前記の人蔘を除き二十五萬四千餘圓の增加、輸移入品としては要需最盛期を控ゆたる食鹽は支那より五十二萬圓の輸入あり先月に比し約卅萬圓の增、綿絲、綿織物、金巾、シーチング等は約十萬圓諸機械類十二萬圓石炭約二萬圓の增果實及び核子は四萬圓減等にて全體として約二十三萬圓の增加を見るに至れり

◎懸賞工業決定

京城商業會議所に於て募集したる家庭工業の懸賞案に就ては更に審查員及び工業部委員會等に於て審查したるものを更に八日の役員會にて最後の審查を行ひたる結果既報の如く一等に該當するものはなく二等に輸出向布帛加工製造業京城金融組合神宮敵三郎、三等閔家市內墨志洞李川鐵之助の兩氏當選し別に選外努遇としては慶尙北道淸道邑內の金鳳鎭、市內西四軒町一八七青山安三郎の兩氏に對し金五圓を贈與すること〻なりたり而して二三等に對する賞金は兩三日中に開工業部長より贈呈すべしと

◎工業獎勵懸賞繼續

京城商業會議所にて募集したる家庭工業獎勵案の懸賞募集は別項の如く八日の役員會を以て最後の決定をなし近く賞狀の授與を行ふこと〻なりたるが更に會議所は今後に於ても相當の方法を以て工業の獎勵を行はんとの趣旨により懸賞を繼續することゝなるべく何れ其方法等に關しては追て總會の問題として決議を經たる上發表さるゝに至るべしと

觀戰行 下關埠頭より(第三信)

金谷生

○七日の夜玄界は頗る平穩三千餘噸のわが高麗丸は、些の小搖もなく、只今無事關門海峽に入り申候

○小生は午前五時起床、遙かに雲煙模糊たる間に長州の連峯を見出したる時、云ふべからざる快感を覺え候。

○六連島を過ぐれば兩岸すべて彥島及び九州の翠巒、ふりさけ見れば若松及び小倉の港灣指顧の裡に在り「あの一番高いのが櫓山で三番目のが我等の先祖が居た立花山ぢや……」とは胸間に旭日章燦たる蜻州將軍のおはなしに候

○甲板には秋山、立花、古海三將軍及び副官あり、小松翰長の家族も亦ベンチの上に見出し候。

○と見れば巖栁島の翠松は殺風景なる石炭貯場と變り居り候へ共大里製糖、同製粉、帝國麥酒等の大煙突は黑烟天に沖し轉た大工業地としての北九州の誇りを示し居り候小生は關門の翠色よりもヨリ以上に大黑烟を愛する者に御座候。

○船は幾多の大汽船とすれちがひつ、方に下關に入らんといたし候。舷側を掠め去るスクナー船の帆影にも、石炭艀船の舵聲にも、關門の面目躍如たるものこれあり遙かに小門海峽の翠松を望んで小松氏は伊藤公時代の昔遊を語られ申し候。

○船は只今下關埠頭に横著けにならんと致し居り候。三將軍は直ちに渡海、福岡に向はれ候。記者も亦輕裝門司に向はんといたしをり候。匇々(八日午前八時五十分)

◎醫術試驗合格者

朝鮮總督府醫院構內醫學專門學校に於て擧行中なりしが本月七日を以て全部の試驗を終了し愈々九日正午を以て成績を發表せり當初受驗總員內地人十四名朝鮮人四名合計十八名なりしが合格者は內地人五名朝鮮人二名にして其氏名左の如し

翟永旭、鄭忠煥、樋口祐三郎、中島明、日高廣夫、德永直道、稲野光太郎

●大分宮崎兩校生徒出發

入京中なりし大分縣立農學校職員生徒一行二十七名は九日午前九時十分南大門驛發開城へ宮崎縣立農學校職員生徒一行三十五名は同午後一時發鳥致院へ何れも出發せり

◎師團除入隊兵

朝鮮駐劄軍は從來二箇年交替として入除隊共に內地に於て行はれたるが既に師團常設の今日之を朝鮮に於て執行するが當然にて本年は即ち第十九師團に於ける交替の第一年なるが輸送其他の關係上內地の如く入除隊の期日を一定し能はざる事情ある爲め各駐屯地により多少の相違あるべく第十九師團管下各隊滿期兵の除隊は來る十一月十日より二十四日迄の期間に於て其々各駐屯地に於て行はれ左の如く出發內地に送還さるべし

第七十三聯隊	十一月廿三日(淸津發)	二十七日(大阪着)
第七十四聯隊	同 二十四日(元山發)	同日同上
第七十四聯隊	十一月廿三日(西湖津發)	十一月廿七日(大阪着)
同(一箇大隊)	(同日新浦發)	同日同
同七十七聯隊	十一月廿二日(釜山發)	十一月廿四日(大阪着)
同七十八聯隊	同 十七日(釜山發)	同 十九日(同)
騎二十七聯隊	同 二十三日(淸津發)	同 二十七日(同)
砲二十五聯隊	同 二十三日(淸津發)	同 二十七日(同)
工十九大隊	同 十七日(釜山發)	同 十九日(同)
騎二十七ノ第三中隊	同 十七日(釜山發)	同 十九日(同)
砲二十五ノ第六中隊	(同 釜山發) 十七日	(同)

右の如く內地に送還され大阪に上陸後同地に於て解散するべし又新入營兵は左の如く各地に集合の上各隊より差遣さるべき將校に引率され十二月一日より十日迄の間に各隊に入營すべしと

步七十三聯隊	十一月廿八日迄大阪に集合	十二月六日迄に入營
步七十四聯隊	(同)	
騎二十七聯隊	十二月二日迄大阪に集合乘船	一、二中隊十二月六日入營 三中隊十二月五日入營
砲二十五聯隊	十一月廿八日大阪集合十二月二日迄大阪乘船	四、五中隊十二月六日入營 六中隊十二月五日入營
工十九大隊	(同)	十二月十日入營
步七十七聯隊	十一月廿六日迄門司集合卅日乘船	十二月三日入營
步七十八聯隊	十一月廿九日迄下關集合廿九日乘船	十二月一日入營

▲龍山部隊歸還兵

第十九師團管下にして龍山に駐屯せる步兵第七十八聯隊及び騎兵第三中隊野砲兵第六中隊の本年滿期除隊兵は步兵八百十一名、騎兵三十七名、野砲兵三十二名なるが此等除隊兵は來る十五日午後十時四十五分龍山發軍用特別列車にて釜山に輸送され同地より乘船大阪に上陸同地に於て解かるべし尙右除隊兵送還の途中取締として步兵第七十八聯隊より副官岡津川大尉以下々士十名、騎兵隊よりは富永少尉以下々士一名、野砲兵隊よりは岩本少尉外下士一名同行すべしと

▲龍山部隊新入營兵

別項記載の如く龍山駐在各部隊滿期除隊兵と交替新に入營すべき兵員は步兵八百六十一名、騎兵四十三名、野砲兵三十六名にして前記歸還兵取締の爲め派遣されたる各將校之を引率し入隊の筈

北朝鮮へ 最終信

西海生

□城津より淸津へ(五日朝淸津にて)

▲四日正午城津港に上陸仕り候先づ港頭の小丘たる公園に登つて大神宮に參拜す、遙かに眼を放てば烟波渺茫として日本海は際涯もなく遠く開け、眼界の盡くる所水天髣髴として一流れの鼠色の雲、山脚を作る、眺望眞に雄大なるものあり、城津市街は脚下に滯の如く續く、秋日靑々として照り、外套を用ゐず、苦しき位の暖かさを覺へ申し候

▲丘を下りて市中を散策す、城津は港に沿ひたる一筋の町にて裏は可なり廣き平野となり居れり、將來市街の如何に發展するも、其の膨脹の餘地は綽々として餘裕ある如し、市中目立つ所の建物は旅館及び料理屋也、殊に旅亭は新に堂々たる二階造りの巨屋二戶其の建築を急ぎつゝあり候、警察に就て聞けば近來奧地の久原銅山並に金銀鐵鑛等の發見せらるゝもの二三にして足らず、從つて鑛業關係者の出入多く宿樓も爲めに需ふ所あり、新營者亦生ずる所以ならんとのことに候ひき

▲城津も郡廳、稅關、警察署、郵便局、測候所と一通りの役所は具はり內地人も約八百人ばかり居住致し居り候、物產として積み出さるゝ主要品は大豆明太若布黑鉛等なるが大豆の如き其の積出しは年額十萬俵にも及ぶ事有之、移出に於ては寧ろ淸津を凌ぐ由に候

▲元山より通信仕り候城津牛の內地移出は兩三日中賃行せらるゝ由にて野原に多くの生牛繫がれしを見受けたり、有志は曰く本年城津地方は大豆豐作の爲め農家の懷ろ合宜しく、牛價騰貴殊に良種の牛は買收に困難なりとの事に候ひき

▲稅關埠頭に多數の鮮人巨萬の鰊を山積しドシ〳〵鹽して叺に積め込みつゝあるを見受け候、昨三日立太子式當日、鰊群城津港內に押寄せ來れるを漁夫等發見し、廣く網を張つて戰場の如き騷ぎを演せし末、漁獲せしもの〻由に候、總數三十餘萬尾、一尾九厘替へとして三千圓の價値あり、今夜南行の平壤丸にて全部元山に積み出すとの事に付、本通信の揭げらるゝ頃には京仁方面にも右鯨の蓄備あるべきか、鯨の初漁として甚だ好景氣なりとの事に候

▲三時城津出帆、寂しき泗浦に寄港して又直ちに發す、泗浦には未だ郵便局の設けなし、然も一千噸の汽船入港す、聊さかそこに矛盾を覺え候、七時頃北鮮航路の最難所たる鮮水端燈臺を廻る、此の鼻は寒暖流の合せる所にして、斷崖の下直ちに水深六十尋に及び、海水爲めに黑色を呈すと云ふ、九日の月天心に懸り、暖風徐ろに吹く波は靜にして月光の海中に碎け居るを給の如く眺め申し候

▲漁大津には夜半入港、鏡城に近き獨津は五日午前五時頃著發仕り候、兩港共に遠淺にて埠頭と船との距離遠く荷役は一通りならぬ勞苦あるもの〻如し、午前七時二十分朝靄を衝いて淸津へ入港、大急ぎに檢疫を受け、ランチに便乘して上陸、直ちにトロに搭乘淸津驛發第一列車に乘車すべく停車場に駈け付け申し候

▲北鮮行は本信を以て最終とし、今後は北鮮見聞に就て愚見申し述ぶべく候、不一

◎歸還交代兵發著日

朝鮮駐劄軍隊歸還兵及び交代兵の本年定期釜山發著日は左の如く決定したる旨其筋に通告ありたり

▲歸還兵第一回 十一月十六日七十八聯隊(騎、砲兵各一個中隊人員八百五十名)著釜山市內各旅館分宿十七日朝連絡船にて出發門司及大阪にて解散

▲第二回 十二月二十一日七十七聯隊全部人員八百名釜山各旅館分宿二十二日朝連絡船にて出發大阪にて解散

▲交代兵第一回 七十八聯隊人員九百名門司より高麗丸に搭乘十二月一日朝釜山上陸同日夜十一時發任地に向ふ

▲第二回 七十七聯隊人員九百名門司より白丹丸に搭乘十二月三日朝釜山上陸同日午後三時臨時列車にて任地へ出發

▲第三回 騎兵第二十七聯隊砲兵二十五聯隊各一個中隊人員百名大阪より琴平丸に搭乘十二月五日朝釜山上陸同日夜十一時發列車にて任地へ出發(釜山)

仁川

▲警察署內精神講話 仁川警察署にては金光教朝鮮布敎管理中敎正高橋茂平氏の來仁を好機とし九日午前九時より同氏を聘して講堂に於て講演會を催し信仰と人格と題する精神講話をなし署員其他の聽講ありたり

▲靑年會語學校敎授 仁川基督靑年會役學會にてはコレラ病流行の爲め久く中止し居たりしが本月初めより再開獨逸語ヘンセル氏朝鮮語盧貞根氏の二氏新たに敎授に膺り因に支那語、朝鮮語は木金の兩日獨逸語は火曜日午後七時半よりなれば會員此際多數出席ありたしと

▲仁川里友會創立 仁川外里內里龍里の有志者は今回町內居住者にして鰥寡孤獨其他不幸の爲め困窮に陷りたる貧困者相救の目的を以て仁川里友會なる者を組織し會長には玉植才一郎評議員には福西庄藏、中山運太、松浦作平、原田嘉平、神田德禎、楢木初太郎、大藪俊太郎、樋谷虎吉の諸氏を舉げ事務所は外里玉植商店內に置く由にて會員は內地人七十二名に達せり

淸州

▲學校組合管理者會議 忠北道にては既報の如く六日午前九時半より道廳會議室に於て第一回管內學校組合管理者會議を開催し一、組合費個人持納入勵行の件一、事務所變更の件一、基本財產蓄積の件等の諸問事項に就いて議し注意事項五、指示事項一、に對する說明を受けて午後四時散會したり

▲郡書記講習會延期 來る七日より忠北道廳にて開催の筈なりし鮮人郡書記講習會は時恰も第一期國稅徵收期に迫れるため明春二月迄之が開催を延期することゝなせり

群山

▲米商組合落成 群山米穀商組合の事務所新築中なりし事は既報せる如くなるが今回愈々落成を告げたるを以て來る十一日新築事務所に於て官民多數を招待し落成式を兼ね盛大なる新築披露宴を開催すべしと

▲西濱埋築工事 既報群山商業會議所に於ける西濱埋築工事は準備著々進捗し工事請負を公入札に附したるに入札請負額は總て豫算に超過し再入札に附したるに再び豫算に超過せるを以て指名請負として近く起工の運びに至るべし

▲敎會移轉 群山基督敎會は信者の增加に伴ひ從來の會堂にては狹隘を告げ道路二條通り角に敷地二百餘坪建坪三十三坪を買收し建物の改造庭園の整備中なりしが客月末完成と共に移轉したり

釜山

▲加藤副參事視察 鐵道院副參事加藤眞一氏は八日午前入港連絡船新羅丸にて著釜したるが其用件は連絡輸送の狀況視察にして同日は鐵道局營業課釜山派出所に就て取調を爲し午後一時發列車にて京城へ向へり

▲浦鹽禁輸と派遣員 東洋貿易研究會より浦鹽貿易の研究調查並に仲介を囑託され來る十三日の便船にて浦鹽に派遣せらるべく確定したる在釜山中村完已の件は其後浦鹽輸入禁止の說ありしに因り斯る際に該調查員を派遣するも何等功力なかるべしとの說一部會員間に唱ふるものありし由にて來る十日午後一時より釜山商業會議所內に於て協議會を開き一般の意向を問ひ更めて確定すべしと

人事消息

▲結城豐太郎氏(淺野探金所長) 入京中の處九日朝退京
▲岡虎太郎氏(滿鐵社員) 同上
▲山室宗文氏(三菱社員) 同上
▲子爵李容植氏 八日夜歸京
▲大垣丈夫氏(京城通信社長) 九日午後九時內地より歸京

○鳥兎子榮轉祝句 ○○○○○

纓の色染め代えんとすれば鴈渡る 犧牲杜
穴の蛇化天上したりけり 蝶羽
行秋を牧塲賑はし驥を送る 白居無

次白水大人瑤韻送小松前翰長歸東 古城 梅溪草

脫却衣冠乞引年。風流欲結月花緣。也知壯志經綸在。飛夢時環木覓邊。

新たに開設せる蒼坪驛(上)新田建設所長(中)清津驛(下)

●清會線試乘の記

世界に比儔ない茂山嶺の大迂回線 囑目の風光悉く北鮮的

――特派員 西海生

全羅丸は迅大雨を五日の午前一時に出航したが、戸川老船長は清津入港九時を過ぎるだらうと云ふ。それでは朝八時に出る清會線清津蒼坪間の開始第一列車に間に合はねと、僕は聊さか悲觀し乍ら寢床に仰臥し、いつかトロ/\して居ると『ボーイが來て『清津にスク入りますから』と云ひ/\起して呉れた。時計を見ると午前六時四十分、氣をセカ/\さして大急ぎに服裝を整へ、甲板に上ると温厚な埋築事務長が『お急ぎになれば間に合ふかも知れません』と云ふ。七時二十分檢疫が濟んだ。すぐ警察のランチで埠頭に上陸、停車場と市中を連絡したトロに乘り込み、車掌のヨボを叱咤しつゝ大急ぎに二十四五町を走らせ、漸く大鉄門に萬國旗を飾して飾つた新らしい清津新停車場に駈けつけた。清津の新停車場は防寒的に建つてゐる。普通驛のやうに入口がバツト開いてゐず、開閉自由の戸が待合所入口の左右に立つてゐる。北鮮式だな！とさう僕は思つてホームに入つた。北鮮國境に運轉する

■蒼坪行きの 初發列車、將來吉林會寧間の鐵道に連絡接續すべき重要な清會線の第一列車は長蛇の如く横はつてゐる。物珍らしげな朝鮮人が可なり乘つてゐる。列車の前にニコ/\した清會線建設當局たる新田技師及び鐵道局汽車課の佐藤技師がゐる。聞いて見ると地方の有志招待の試乘臨時列車は六日に出すから今日は別に知名の人も乘り込まぬだらうと云ふ。僕は此の

■第一列車に 清津の有力家が多數試乘することとのみ信じてゐたので、聊さか當て外れの氣もしたのであつた。それは兎に角定時を過ぐる十分、汽車は蒼坪に向けて北行、何だか深い意義の籠つた列車のやうな氣がする。客車は二輛それに七十人許りの内鮮支人が乘り込み、二等客には會寧に行く大尉及び中尉並に家族、試乘として新田佐藤兩技師それから僕の三人であつた。貨車は八輛連結され、それに米、原鹽、雜貨などの會寧行き荷物が

■百二十噸程 分載されてゐる。何でも汽車の開通を氣構へて清會間の輕鐵も近頃貨物輸送を手控にしてゐたのだとの事である。十輛の貨車及び客車だから一臺の汽罐車で牽引力が足らず、補助汽罐車が後から勢ひよく押して來る。清津を出づると方三里以上と稱せらるゝ輸城平野が一望の下に開けて所々に點在した鮮人家屋が小さく目に寫る。すぐ廣い輸城川の

■假橋を列車 は徐々と渡る。本鐵橋は昨夏の大出水に鑑み大規模の設計を立て目下架設を進めてゐる。輸城川は元來水は少ないけれど河床の幅の徒らに廣い河だが昨年九月未曾有とも稱すべき大出水あり、廣い河幅は一層擴張され輸城停車場附近の如きは其の河床二千間と云ふ素晴らしい差し渡しを有してゐる。殊に同驛附近は

■河床も高い ので線路の堤防ばかりで行かず出水時に於ける防水の長堤を別に築設されてゐた。簡易驛を經て車掌が乘客の檢札を始める。三等車に簡易驛で無斷乘込んだらしい五六名の鮮女あり、車掌が切符を持たぬかと云へば無いと答へ、金は？と問へば金もオプソと應ふ。そして其れが如何にも當り前だと云ふやうな面をしてゐる。何でも營業開始前建築列車に時々便乘を許してゐたので女は

■今日もロハ で乘れる事と思つてゐるらしいとの事だつた。章興驛間の左方に大小二個の奇岩が相並んでそゝり立つてゐる。新田技師は『兄弟岩だよ』と説明して『内地なら差し向き夫婦岩と名を附けるだらう』と附け加へた。一寸沿線の見物と思はれる

■長い/\隧道 富寧に著くと流石に郡廳の所在地とて乘降客が多い。此驛を出る頃より輸城との幅は段々狹まつて

■溪川らしい 趣きを顯し、左右に迫耳する山々も漸く近接し來る。古茂山は淋しい小驛、これから線路は五十分の一の曲線急勾配となり、前後の汽罐車は喘ぎ/\進んで行く、十時二十分蒼坪に著いた。概して云へば清津蒼坪間の鐵道は輸城川に沿つて上り、沿線の平野は輸城平野を除くと殆んど云ふに足らぬ、たま/\あつても草生の河原で何物も育たぬ不毛の地である。清會沿線は草生の河原で何物も育たぬ不毛の地である。清會沿線は京元線の三防附近を思はせるやうな低いなだらかな禿山に非ず、山は高く突角的な所が北鮮らしい。山の雜木も平地の林も殘らず紫に枯れ萎み、松の翠緑のみ青々としてゐる。紅葉の頃是に

■新線の沿線 は風景賞すべきものがあると新田氏は語つた。蒼坪は鐵道工事の爲めに出現した町である。此驛から鐵路は多數の長トンネルを貫ぬき山腹を廻つたり、狹しく後戻りしたりして茂山嶺を超へ會寧に下るのだ。此の茂山嶺の如き大迂路をとつた鐵道は世界に類が少ないとの事である。而して其の

■開業は明年 の秋であらう。事實蒼坪から右手の高山の山腹高く隧道や鐵路を望見するのは、迂迴線でなく進行線のやうな氣がする。蒼坪驛で一頓り提戰して十時四十分[illegible]車九十人ばかりの客があり、其内土地調査局員二十名の引揚げ團體が乘り込んでゐた。二等にも途中より乘客多く輸城驛を過ぎると清津港が近く光る。一時清津驛着、清蒼間相互の初發列車試乘を終へたが、此日全線の總收入は

■二百五十圓 に近く第一日としては成績が良いかたとの事であつた。六日は試乘列車の運轉、祝賀會等で賑はうであらう

●艀に忍び寄る青い光

玄海の吹雪の夜＝五十嵐高麗丸船長談

關釜連絡船高麗丸(三〇〇〇噸)は今し彼女の便しい姿を徐々に釜山の大棧橋から離した。沖には大空の星が浪に映れて居る、顧れば港の灯火は狐火の如く瞬り、甲板には内地に歸る人々が牧の島の灯影をながめて居る。牧の島の山は恐らく加藤清正も此處から眺めたに相違ない。此の浪はまた神功皇后の時代からくりかへし/\岬の岸を洗うて居よう。甲板には滿州で客死した弊男も居れば、鐵山で儲けた男も居る。舷側にザヽと碎ける浪は十一夜の月光に光つて青い。これから御紹介するのは高麗丸船長五十嵐氏の玄界物語である。斷つて置きますが船長は今甲板で北斗を仰ぎながら腕に四本の金筋を入れた制服姿で青い月光を浴びながら立つて居る處である――

鳥も通はぬ玄界灘をとむかしから海の難所といふのは無理もない、釜山下關間百廿哩の

▽對馬海峽は常に 碎け浪の立つところとして知られて居る。それにまた絶えず颶風の中心が通過するから此の海上は時化が多い。風が年百年中北東風が吹くから船は横なぐりに吹きつけられて動搖する。今年は前後二回の大時化に遭つた。始めは何んでも六月頃だつたと思ふが殆んど船體が折れるかと思つた。次は去十月の颱風で此の時は

▽船がねじれるか と思つた。恁麼時私は船橋に身體を縛りつけたまゝ頑張ります。併し有繋の玄界も毎日時化の問屋は致さぬ。中には今夜のやうな靜穩な日もあります。何うしたものか支那人は玄界の玄の字を恐れます。これは古い以前のお話ですが嘗て郵船の上海航路に玄界丸といふのがあつてそれには支那人の乘客がなかつた。聞けば玄の字が祟りをしたといふことでした。併し聯絡船の三千噸なれば十時間の

▽玄界横斷は物の 數でもありませぬ。既に長州あたりの漁船は僅か二三間の帆舟に帆を張んで沖の暗いのに乘り切りますから實に偉いと申さねばなりませぬ。『玄海灘の只中に……旗ひるがへす常陸丸……』で名高い沖の島は此の邊の漁師は『おいはづさん』と呼んで居ます。島は對馬と本土との中間にあつて船の

▽針路上十二三哩 の南に當ります。いつかのこと本船が沖で遭難漁船を救つたとき件の漁夫には『沖の島』の靈がちつとも解らず『おいはづさん』で始めて手を拍つたことがありました。島には冷たい清水も湧きますがまた伊和神社といふ海の漁夫の守護神があつて福岡の宗像神社の末社となつて居ます。毎年

▽一回崇嚴な祭禮 が行はれますが、此の時は筑紫の阿部の仲麿(船長の警句？)みたいな人が帆船に乘つて出かけるといふことです。お剩けに島は周圍一里餘りの一孤島で何となく神話めいたおはなしです。それに此の島は福岡縣の管轄に屬し山口、福岡兩縣の漁業區域となつて居りますので僅かの一孤島と雖も漁業家にとつては大切な島となつて居ります

▽伊和神社は山の 中腹にあつて沖合からよく眺められます……それに今はあまりありませぬが一時トロール漁船の盛な頃には沖の島と對馬の間で度々網を引つかけてとられました。あのあたりの海底には不可思議なこともありませうしまた日本海々戰に擊沈された露艦の屍骸が澤山あると思はれますよく鬱闇の航海では海戰の跡を訊く外人などもあります

▽『金口莨をお携ち ではありませんか……』と船室に税關の官吏が來た『朝鮮紙幣を兩換しますから……』と甲板に案内された。船の中には朝鮮の風と内地の風とが一緒にふく、これからはまた五十嵐船長さんのおはなしとなる『……此の船は大正元年に神戸の川崎造船所で進水しました。當時百萬圓の建造費がかゝりましたが今のところでは三倍かけても出來ませぬ……お客さんの往復は

▽春が多くて冬に なるとめつきり減ります。正月にはまた内地へ歸る人が多くありますが平均一航海二百五十名はありませう。積荷はいつでも朝鮮の大豆が多く現物を見ると何うしてこれ丈けの大豆があるかと驚かれる理です。海の神秘的なお話としても別段ありません。陸に化物屋敷、化物井戸があるやうに海にも何かあり相なものですが不幸にしてまだ私は見參したことがありませぬ

▽併し唯だ吹雪の 夜など檣と云はず舷側と云はず船全體に青い光りを見たことはあります。併しこれは空氣中の燐の作用で不思議でも何んでもありませぬ……唯だ困るのは玄界の投身自殺者が多くなつた一件です。これはモウ昨今では稀らしくも何ともない事件となりました。萬一船に投身者があつた場合には船長は是非本船を引返して廣い海上を搜索するのですが滅多に發見された驗しはありませぬ。

▽死神に憑かれた 投身者、それは多くは單獨の旅行者で手荷物一個ない人が多いやうです。殊に男ならまだしも、婦人客の手ぶら客と來ては滅多に油斷が能きません。飛び込むのは主に船尾から躍り込むのが多くそれも深夜人の寢靜まつた一時二時を選ぶから全く始末に了へません……船は今對馬と沖の島の間を去る、玄界の夜はいよ/\更けて月下の濤は燐の如く光る(完)

●百萬羽の雀捕獲 忠北道に[illegible]の忠州郡の約十萬羽と七月以降各郡[illegible]の雀捕獲數を加ふる時は優に百三十[illegible]

[illegible]を通過して機關車に觸れ即死したる[illegible]より武城[illegible]

▲進行方向 北東 ▲記事 降雨あるべし ▲警戒區域 慶尚南北道の沿岸

[illegible]十一月八日午後入港壹岐丸二等客[illegible]

(讀者文藝) 課題及募集規程

●募集規程 ▲用紙は端書又は[illegible]

天氣 ▲晴れ時々曇り 十一月十日[illegible]

●蔡鍔逝く

福岡大學病院に入院治療中なりし蔡鍔は八日午前遂に死去せり(大阪特電)

●シメンス事件判決

シーメンス事件は昨八日を以て辯論終結せり判決言渡は來る十八日なりと(東京電報)

●岩本家の負債三百萬圓

自殺せし岩本家の負債は三百萬圓にして財産は百七十萬圓あり債權者へ支拂ふ可き割當率は五割見當なり(大阪特電)

●本町署へ自首

七百餘圓を窃取した某郵便所の事務員

佐賀縣小城郡三日月村生れの福地萬吉(二一)は京城市中某郵便所の事務員として勤務中六月末より十月中旬迄に其取扱ひに係る小包代金引替料金其他を二十數回に合計金七百二十餘圓窃取し其都度證券の僞造をなして詐欺を働きゐたりしも遂に良心の苛責に耐へず此程本町警察署に自首し出でたりと

●名古屋に眞性ペスト

名古屋市に八日眞性ペスト患者一名發生したり(大阪特電)

●列車内で頓死

京元線夜行の出來事

八日午後十二時元山より南大門驛に到着したる列車内にて一名の朝鮮人死亡したるより時節柄本町警察署に警官警察醫出張檢視せしに死亡者は住所不明の朴允達(三二)といひ多分咸鏡道人ならんとの事なるが京元線議政府驛附近より嘔吐を爲し遂に龍山南大門兩驛間にて死亡したるものにて吐瀉物は目下檢鏡中なりと

●馬車小兒を轢く

八日午後四時頃京城獻水洞池田守一(六)は母のあさと共に黄金町二丁目の金樂湯に行く途中折柄黄金町より水標町に向け通行中なる高陽郡纛島面廣莊里の荷馬車挽金今歪(三五)の馬車に轢かれ足部に重傷を負ひたるより直ちに明治町和田醫院にて應急手當を受けたるが治療費は金今歪より全部支給すべしと

△八日目勝負(○印は東京方)

九日午前四時著電

東京合併相撲八日目は番狂はせ頻發し場内の景氣頗る引立ちたり當日の勝負手捌き左の如し

勝	負	勝	負
○常の花	冨永山	梅若	○朝日山
○男島	玉手山	大鳥	○清瀬川
○太刀嵐	殿り	○神錦	五十嵐
○一港	山	○大門岩	朝風
○國見崎	小若島	鳳	車休○成瀬山
○駒泉	駒ヶ嶽	朝日嶽	○逆鉾
金の花	○藪島	紅葉川	○響矢
○朝日潟	○土州山	初嵐	○朝緑
○宮城山	朝山	大嵐	○寒玉子
大門	○大の川	○釋迦嶽	時ヶ嶽

源氏山 なげ 時の矢

日出山 かたすかし 九州山
大泉 うつちやり 對馬洋
綾川 ひつかけ 二瀬川
荒岩 もたれ 伊勢濱
栃木山 つりだし 朝日山
西の海 こてなげ 不知火
▽中入後
龍ヶ崎 鳴門岩 荒○ 玉かし 大砲
宮木山 したてなげ 黒瀬川
大達 岩木山
宇都宮 うはてなげ 有若
西の森 小常陸
兩國 すくひなげ 千舟川
大錦 よりきり 加古川

右の内▼大の川に大門は突き合ひ大の左を差しては肩透しを引く事再三門殘して左四つ上手投を打つて門の勝▼時の矢に源氏山は右四つ源氏左を筈に當つるや強引に押倒して勝

▼日出山に九州山 は九立ち上りさま左を差し九の出ハナを肩透しを引けば美事に日出の勝は大番狂せにて大喝采

▼大泉に對馬洋 は泉飛び込んで二本差となり強引に吊り進むを對馬廻り込んで浴びせ掛くる際綺麗にウツチヤツて泉の勝も前同様大喝采▼綾川に二瀬川は左四ツ極めて簡單に捻つて綾の勝は呆氣無し

▼荒岩に伊勢の濱 は荒二本差に行くを伊勢門に拔き上げ極め出さんとする際内掛けに攣れ込んで荒岩の勝

▼朝日山に栃木山 當日第一の好取組なり立ち上り左四ツ無雜作に吊り出して栃木の勝は餘りに呆氣なく觀客啞然たり

▼不知火に西の海 不知二本差となり煽つて寄るを大きく打つたる小手投げ美事に極まりて西の勝にて中入

▼宮木山に黒瀬川 双方精鋭同志なり立ち上るや突き合つて左四つとなり黒瀬吊身に寄り進むる宮木殘しつゝ下手投を打ては美事に極まつて宮木の勝

▼宇都宮に有若 は突き合つて右四ツとなり有が煽つて寄り立つるを何んのとばかり打つたる宇都の上手投極まつて宇都の勝▼小常陸に西の森は烈しく突き合ひ左四ツと爲りて寄り合ふ内小常鼻血を出したるため痛み分け

▼兩國に千舟川 は千舟立ち上りさま兩の左手を卷いて掛け投げに行くを兩心得て體を預け反對に抑ひ投げを打つて勝

▼加古川に西の海 は左四ツ無雜作に寄切つて西の勝にて午後五時打ち出したり

讀者文藝(一等には五十錢の當籤券を呈す)

▽冠付『先づから/\』と高笑ひ

◎菊天狗先づから/\と高笑ひ 京城黄金町三丁目 やまおか生

▲飛車王手…… 京城 江島生
▲假裝して…… 龍山 奇好子
▲家傑は…… 京城 醉夢
▲瑞解に…… 仁川 矢間本
▲密談は…… 京城 八坂多美子
▲見付けられ…… 龍山 海坊子
▲拍子拔け…… 京城 思外
▲敵役……(先著) 水原 逃金一寸郎

〔演藝案内〕

大正館 櫻井町 電話八七三 日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 十一月八日より提供の新番組 ○實寫オランダの風景 ○喜劇甘い茶[illegible] △日活新派尾上松之助一派出演 舊劇鬼夜叉丸 全三卷 △佛國エクレール會社大傑作世界的大冒險大活劇 天馬空 全三卷 惡漢フレッドは妻ヘレンと共に大家の寶玉を奪ひて蹤跡を晦まし曲馬團に潜入して[illegible]

浪花館 明治町 電話二六〇 △[illegible]江戸落語三遊亭[illegible] 朝寢坊むらく改め橘本川柳一座 △落語[illegible] △落語[illegible] 毎夜正五時半開演仕可候

有樂館 連鎖劇大道具準備の爲め本日臨時休館明十日より特別大興行として左の大寫眞上場 活劇中の活劇冒險的大活劇 死の曲馬(サーカス) 新派連鎖悲劇 うき雲

黄金館 電話一八五二(階上)二六三七(階下) 天然色活動寫眞株式會社朝鮮一手代理店 カシー商會 十一月七日より差替特別大寫眞 ▲伊太利アンブロシオ社[illegible] ▲大活劇[illegible] ▲米國ユニバーサル會社一大傑作探偵奇譚第二黒箱[illegible] ▲教訓琵琶劇孝女お信 筑前琵琶兒島旭洲彈 ▲舊派實錄 肥後の駒下駄 全四卷 ▲ユニバース週報 ▲連鎖劇月岡刑部宅の場

有樂館 本町一丁目 電話二六六 日本活動寫眞株式會社特約 十一月九日より特別大興行 ▲實寫京劇數種 ▲日活關東撮影所最近の新撮影[illegible]

壽館 京城壽町 電話一〇五〇 十一月八日より獨特の浪花節東洋軒雷右衛門一行 ▲安中草三郎(東洋軒雷吉) ▲大和櫻之助 ▲百美談三席 ▲左甚五郎(畠山松雪) ▲寒之魁之卷(東洋軒雷右衛門) ▲樋口雪之瑞 ▲合併節水府公

御成座 御成町 電話一九一 ▲第十八回喜劇 (一)孝か不孝か兄殺し 全九場 (二)喜劇 浮世 全二場 [illegible]

第拾回決算報告

貸借對照表(自大正五年四月一日至同年九月卅日)

資産之部 / 負債之部 [illegible]

損益勘定

總收入金 [illegible]
總支出金 [illegible]
差引當期利益金 [illegible]
前期繰越金 [illegible]
合計 [illegible]

利益金處分

法定積立金 [illegible]
別途積立金 [illegible]
機械器具建物償却金 [illegible]
賞與金 [illegible]
株主配當金(年六分) [illegible]
後期繰越金 [illegible]

右之通リ[illegible]候也

大正五年十一月 朝鮮煙草株式會社

深井、青木兩監査役任期滿了ニツキ篠本鼎氏ヲ選任ス

胃腸最新藥 ヂゲスチン

日本歐米十三ヶ國專賣特許

胃腸疾患、食慾不進、胃病後の恢復期、營養補給の目的にて肺の疾患小兒の營養不良等に實用せらる

常用すれば血液を増し精力を盛んにす ◎説明書送呈

東京本町 藥種問屋 合資會社 圓城商店

父犬島彌平儀豫而病氣の處十一月九日死去致候間此段謹告仕候

追而葬儀は明十日午後四時大和町二丁目曹谿寺元日韓寺に於て執行仕候

大正五年十一月九日 男 犬島新作 親族總代 同 友人總代 同

神佛葬儀請負 供花御寄贈品一切 京城大和町壹丁目五 大和葬儀社 電話(一四三六番)

▲富の道しるべ 山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵税二錢 京城本町通振替三〇〇番 京城日報社代理部

朝鮮人の夫婦

觀念が違つて來た 社會現象の一つ

近來朝鮮人間に於ける離婚又は夫婦同居拒認、除籍或は入籍、遺産相續又は損害賠償と言つたやうな人事に關する訴訟事件が餘程殖ゑて來た、殊に離婚の請求などは頗る多くなつたといふことである、是は要するに從前

其の法律の制定

が無かつた爲め裏面に雌伏してゐた種々の人權關係爭問題が表面に暴露されたもので別に殖ゑた譯ではないと某法官は語つてゐた、昨今の事實、其他各地の裁判所でも人事問題の請求訴訟が多く取扱はれてゐるのは事實である、元來朝鮮では何千年の久しい間の因襲として男女は一旦結婚して夫婦の縁を結んだ以上其間に如何に苦しい事があつても公然離婚することは不可能の事であつた而して妻から夫に對し離婚の請求を訴へるといふことは如何なる理由があつても絶對に出來なかつた夫れが近來は女の方から男に對して離婚を迫る訴訟が續出するやうになつた傾向がある是に就いて原因調べをやつて見るに

舊韓國時代には

女なるものは殆ど人格を認めず東洋一流の例に洩れず恰かも一個の生きた肉塊としか認めぬやうな憫れな境遇のものであつた爲めに壓迫、盲伏、絶對服從、盲從といふ風に夫の命是れ從ふといふ慣習に依つて何等の不服も苦情も云ふ事が出來なかつたのである然るに新政に浴するやうになつて人權の保護、人權蹂躙といふ壓迫的な帷が除去され夫を相手取り相當の理由を具申して離婚や同居確認等の訴訟を裁判所に提起する事が出來るやうになつたので朝鮮婦人は今更

聖恩の有難さに

感泣してゐる先朝鮮舊來の家庭の成立ちとして男が妻を迎ふるには大抵あれなればと見込みをつけた女であつたら夫の家に嫁入りするに就ては男女ともに絶對不服を唱ふることは出來なかつた、そこで一度結婚入嫁した女は其後如何なる災難があつても、夫婦舅姑間に不和を來しても縱令夫が嫌ひであつても決して離婚することは不可能の事であつた、其れから朝鮮では婚養子を迎ふるといふことは決して無かつたもので女許り生れた家では其の女兒は悉く他家に嫁けて終ひ

自家には相續人

として他家から男兒を貰ひ受けて養育する習慣であつた、尤も此の場合は決して他姓の家からは貰はぬ、必ず同姓名の一族の內であつて成るべく血縁の近い者と限られて居る、大抵は男系の兄弟の男兒で即ち甥に當る者を選ぶのである、他姓の男兒をして後繼者と定めた際は其の家なり血統は斷絶することになる、例へば李姓の家に男兒がなく金姓の家からの男兒を貰つて相續人にすれば其の貰はれた男兒は縱令入籍してあつても李姓は名乘らず生れ在所の姓である金姓を使用することになつてゐる、是が爲め後繼者となるべき

男兒の無い家で

は非常な不遇に陷ることが往々あつた要するに男系の男兒なるものを最も重要視することは內地でも同樣のことであるが女系の方は絶對に認められてゐなかつた、女系の方は血統の繼承がないものと看做されてゐた(つゞく)

流行の茶と青竹色

色白な顔=艶かな顔=淋しい顔

近頃婦人の服裝を見ますと、半襟著物帶等に大分茶の色と青竹色とが流行して居ますが、人に依つては此等の色合のものをつけて非常にスッキリと引き立つ人もあり、又それと反對に

□**不調**の感を深からしめるのもありますが一体茶と云ふ色はくすんだ色合のもの故年增向には上品ですが、若い婦人には餘り適當した色ではありません。茶地の半襟をかけると紫地や肉色をかけたやうに

□**顔色が**晴れ〴〵と引き立たず、何んとなくいかつく見ゑるものです。此の色の著て似合ふ顔は眉目の鮮明な色の白い、そして髮の毛の黒い全體に柔か味のある顔の方に限ります。髮の赤い、顔の輪廓のぼんやりした人は著ても引き立つものではありません。而して若し

□**茶地の**著物を著た場合は、羽織も共色にする方がよいやうです。著物の方を金茶クリーム等の淡い、柔か味の出た色にし、羽織は稍濃い色にして揃へると反つて淡泊した人柄に見ゑるものです。青竹色の半襟等は面長の淋しい顔立の人がかけると、倒淋しく沈んで見ゑるものですから、斯した色は華ろ

□**丸味を**帶びた顔付の人によいのです。面長の人は花紫とか藤色のやうな華やかな色彩のものをかけると幾分か淋しさが消ゑます。それから模樣について云ふと、派手やかな肩模樣の著物は何うしても細そりした撫肩の人でないと

□**肩巾が**廣く見ゑてスンナリとした氣分が現はれません。肩巾のがつしりした婦人は肩模樣の著物は著ぬ方が勝です。それから半襟と著物と帶は地色を違へて、模樣は同じ意匠にした方がシックリした調和が保てます。總じて丸顔の人はスッキリした色合のもの

□**面長**の人は華やかな色合のものをつけるやうにすると調和が保たれる上に引き立つて見ゑるものです

灯ともしごろ

▲關釜連絡船の高麗丸が方に玄海灘に入らんとする八日の朝のこと▲九州大演習南軍司令官の職を振りた甲板上の秋山將軍に伺ふと將軍は造作もなく「こちら〳〵同じ海ぢやよ……」と申された▲門司に近づいた時、九州の高い山からギラ〳〵した朝陽がまぶしい許りに差しのぼつた▲立花將軍は古海閣下を顧みて「このごろでは此の海峽を渡るよりも朝鮮海峽を渡る方が多くなつた」▲小松前師長が云はれるに「古海將軍が俄かに『地の景色はいつもながら綺麗だな』」▲「立山と硯の海、誰かがきそめし文字が關……あれが雄立山ぢや」▲なるほど大岡硯海は此處から出たものですな」と小松さんのおはなしであつた▲甲板にはまた京城サクラバーの女將がかつた、女將は昨夜聯絡船に乘ると共に日頃信仰する大神宮樣のお護符を肌身に拜んでゐたが不思議に海は凪ぎましたとの事▲これから船旅の人は女將と一緒に玄海を渡るがよからうと大笑ひとなる

神社とお寺と教會

◎西本願寺(若草町) 十日午前十時午後一時同七時より組師聖人の法恩講あり

◎本門佛立講京城布教所(竹添町二ノ十二) 日正午より御會式及び移轉式執行の由

● **中村家の慶事** 鐵道部中村組總支配人中村辰五郎氏次女てる子孃(一八)は茨城縣名家菅藤作兵衛氏の媒介に依り今回海軍小主計山口鳥三(二六)氏と縁約成り來る二十日茨城縣石岡町皆藤邸に於て華燭の典を擧ぐる筈

● **柔道研究會大會** 京城講道館柔道研究會にては十二日午前八時より秋期大會開催の筈なるが同日は幼年部青年部及び有段者の仕合も施行す可しと

● **故本間氏法要** 一昨年十一月江原道三陟郡出張先に於て殉職せし本間九介氏の遺族並に知友相集り來る十一日午後一時三十分より龍山元町一丁目瑞龍寺にて第三回忌法要を行ふ由

● **無門會延期** 來る十一日の土曜日を以て開會の筈なりし十一月無門會は老師の都合に依り來る十八日の第三土曜日に延期することになりたる由

● **伯夫人送別會** 來る十二日午後零時三十分京城ホテルに開催の筈なるが出席希望婦人は愛國婦人會朝鮮本部に申込むべく會費金一圓服裝隨意なり何ほ當日は多年相談役として會務に盡力したる兒玉伯も臨席せらるゝ由なり

商況

東京株式特電

	前場寄付	大引
日本郵船	—	—
南滿鐵道	—	—
京紡	—	—
日本參	—	—
東株	—	—
東株新	—	—
東株新第一	—	—
東株新第二	—	—

債券現物特電 日出來值段(前日との比較)

京城電氣、朝鮮銀行、京釜鐵道、朝鮮鐵道 — — — — —

公債直取引特電 (前日との比較)

五分利 甲	八三、九〇
同 乙	八二、九〇
四分利	—
五分利	—

深川在米特電

九日現在高 朝鮮米 一四、二四七 / 內地米 一〇、三八〇 / 計 七九、五〇二

東京期米特電

九日前場 寄付 一一月限 一六、七七 / 同 一六、七〇 / 同 一六、八一 / 後場 — / 止め —

大阪株式特電

銘柄	前場寄付	後場引
宇治川水電	—	五五、〇〇
神戸電氣	—	三三、二〇
京阪電鐵	—	三一、〇〇
大阪電燈	—	六三、〇〇
同 新	—	五七、〇〇
大阪商船	—	一六〇、〇〇
上新	—	—
鐘紡	—	—
同 新	—	—
大阪株式	—	二五〇、〇〇

大阪三品特電

八日後場 引 十一月限 九〇〇 / 十二月限 九〇〇 / 一月限 九〇〇 / 二月限 八九〇 / 三月限 九〇〇 / 四月限 九〇〇

大阪期米特電

九日前場 寄付 十一月限 一六、六〇 / 十二月限 一六、〇一 / 一月限 一六、七九 / 止め

下關期米特電

九日前場 寄付 十一月限 一一、八五 / 十二月限 一一、八三 / 中限 一一、八五 / 先限 一一、八七

雜報

● **鐵市場は沈靜** 倫敦に於ける鐵價は高値を呈し……鐵市場は未だ活氣乏しく丸棒の如きは內地製品の需要に依り漸く外國相場と追隨し居るが一般に需要家の買氣不振にて其他の鐵材も依然として徐々に引緩みつゝあり……各種鐵材の相場は保合を持續し居れり

● **製粉は更に强硬** 內地製粉は輸出で大戰物を加へ會社の……

● **精白値上げ** 精白卸値は九錢の値上を告げたり

五十錢の値上

● **鮮白安氣配** 正米鮮白は白米高に反し本月初めより引續き安氣配にて目下極上十三圓五十錢上十三圓五十錢なるが斯かる……

● **白絞油更に昂騰**

十四圓五十錢

白絞油は昨今六十四圓を拔き本年の安値より二十餘圓の暴騰……

● **三巴仲買店** 京城取引所仲買人 京城本町一丁目 電話三三三二番 振替口座京城四〇一二

● **染料類は不味** 雜貨物 鑛物 ……染料類の活躍に連れ賣行旺盛なるべき筈なるに依然として……化染料黑色の如きは亦々優良のもの市場に現出するに至れり

下關相場

● **小賣白米亂調** 白米卸小賣値は今尙は亂調を呈し今回の値上げに對しても小賣は各店思ひ〳〵……

京城正米

△朝鮮一等白米(常用)	十五圓八十錢
△同	十五圓九十錢
△同	十六圓
△優良大豆	十一圓五十錢
△若木大豆	十一圓六十五錢
△深川大豆	十一圓八十五錢
△宜川大豆	十一圓七十錢

內地正米高と移出文の繼出に漸騰歩調に在りし正米も今朝は大阪期米の行止まりの影響を受け反落し……

京城雜穀

大豆は引續き上氣配にて相場は上物八圓五十錢小豆又然からず十一圓六十錢を持合氣味なり胡麻は依然十六七圓の見當を維持し荏子は一時行過ぎの高値を唱へられ……

南大門の廻穀

論山玄米 二六一叭	安養白米 六一叭	
烏致院白 二七三叭	金村白米 一八叭	
中和 叔 二六叭	金村叔 四四叭	
水原白米 一七三叭	一山白米 一六叭	

仁川現物市場

△殺入津約千俵 氣配は期米安に連れ二十錢安見當を唱へ居れり △正米入津少なし 氣配は期米安にて二十錢乃至三十錢安見當を唱へ居れり △大豆入津三百餘叺 氣配は依然强人氣

仁川期米

▲九日前場 兵庫前寄十六圓六十九錢 大阪天候小雨 十六圓十九錢 昨止より六錢安の入電二節七十二錢と安移りにて當地寄出來不中中大盛商を示したるが……

八節七十三錢と安

大阪六節七十九錢と高移りありたるも引續き……

市場零聞

▲續て下押す 天候晴 昨日後場不勞の機先大阪の下寄跡安を受けて投げに新規に賣物多く十二圓四十一錢と下放れたるが一面利喰に押目待ちに買物多く忽ち五錢高れたるが

▲仕手の移動多く 殿亜第二は途轉賣越說

▲今大に賣る 强氣の主力筋

▲八大に賣る 今前場同店より賣りたる玉數一萬餘石に上りたり

▲全能く賣る 前場同店より賣りたる玉數四千餘石に上りたりと注目を惹ひたり

▲⑦能く賣る 前場同店より

▲㊀能く賣る 前場同店より賣りたる玉數三千餘石の買ありたるも注目を惹いたり

▲㊦大に買ふ 前場同店より買たる玉數一萬五千餘石に上りたりとの事一面八千餘石の大賣物ありたるも大に市場の注目を惹いたり

▲三大に買ふ 前場同店より買たる玉數一萬三千餘石に上りたりとの事一面小二千石の買ありたるも大に市場の注目を惹いたり

▲要能く買ふ 前場同店より買たる玉數六千餘石に上りたりとの事一面二千餘石の賣ありたり

▲⊕の利喰買 前場引續き同店より買過ぎたる玉數四千餘石に上りたりとの事にて注目を惹いたり

▲㋑の商內 前場同店より賣りたる玉數七千餘石に上りたりとの事

▲全の商內 前場同店より賣りたる玉數小二千石の商に上りたりとの事

▲中限逆鞘 新市後台中限より五錢の上鞘を以つて生れたるが其後相場の昂騰に連れ益々鞘開きを示し

一時二十錢鞘と迄擴大したるも昨今不勢となるや鞘寄せの振り合なりし

示一錢の逆鞘

▲押目か否乎 昨前場寄付十七圓十八錢と更に新高値を報じたる大阪入電は是を目先の高値として今前場十六圓七十二錢と實に四十六錢の反動安を報じたり當地連れ安にて昨の十二圓八十錢を高値とし今前場十二圓四十一錢と三十九錢押しを示したり是果して昨の高値が天井なりしか今前場の安値が押目となるか柔より知る處に非ざるも强氣としては絶好と押目となし弱氣は又天井打ちとなし以つて大激戰を演じ居れるが御說も今後の成行や果して如何

仁川米豆取引所

九日の一月限

前場	
寄付	十二圓四十一錢
止め値	十二圓四十五錢
高値	十二圓四十五錢
安値	十二圓四十一錢
出來高	三萬二千八百五十石

平均値段	
一節	十二圓四十四錢
二節	十二圓四十五錢
三節	十二圓四十五錢
四節	十二圓四十五錢
五節	十二圓四十五錢

賣買取組高		前日と比較
十一月限	二萬七千七百石	
十二月限	七千百五十石	
一月限	六萬六百石	

八日後場		
十一月限	一二、七三	三安
十二月限	一二、五五	二〇安
一月限	一二、七三	八安
	一二、五二	一安

小賣白米

現金賣 一等白米 十五錢五厘 / 次白 十五錢

白米標準値

十五圓二十錢

青物市場

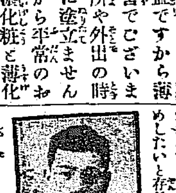
コイモ	二五	ホウレンソー	二五
サツマイモ	一五	ジンキタ	一五
アカメイモ	一五	ダカナ	三〇
ツチイモ	二五	ナツパ	三五
ナガイモ	七〇	ハクサイ	二五
ツクチイモ	一〇〇	シヤクシナ	三〇
クワイ	八〇	フダンソ	六〇
レンコン	一五	フジマメ	六〇
ニンジン	二〇	サヤマメ	二五
ゴボウ	二〇	インゲン	一〇
ダイコン	一五	マツタケ	三五
バレイ	二五	カド	二〇〇

令孃方のお化粧

花も羞らふ年頃の化粧 餘り白きも上品ならず

河合武雄談

私も舞臺で令孃に扮しますことがありますので舞臺以外の令孃方のお化粧について觀したり又如何したら方がよからうと考へたりいたします機も多いことですから私の實驗しましたことでお利益にならうと思ひますことを少し申し上げませう。令孃方のお化粧には和風の濃化粧と薄化粧、洋風の濃化粧と薄化粧などがありましてその內各自のお好みでお選びになりますのでせうが兎に角十六七歳から廿歳前後の娘盛ですから薄化粧より濃化粧が多い筈でございます、けれども儀式の場所や外出の時でもなければ餘り眞白に塗立てません方が上品でございますから平常のお化粧といたしましては濃化粧と薄化粧との間で幾分濃化粧に近い位が宜からうかと存ます。此お化粧をいたしますには先朝、洗面器に微温湯か、軟水と云ひまして石灰分を含んで居ない水を洗面盤へなみなみと湛へまして此中へミツワ花の雫を三四滴垂しますと水がすつかり花から集めて來ました雫の樣に上品な芽香がいたしますから此水でミツワ石鹼を使まして顏を洗ふのでございます。ミツワ石鹼は皮膚を刺激して荒す樣なはなく穏和に汚垢を落して營養を助け機能を健かにしますから肌膚は生々として清潔になりまして白粉ののりもよくなりますから鏡臺に向ひまして化粧用の白粉下を襟へかけて引いて之を輕く拭取り其上へ西洋刷毛で淡紅色の粉白粉を刷つけまして今度は叩き刷毛へ隠し化粧用の白粉を含ませて前につけましたのを拭き落す心持で撫延して行きますと浮いた粉が落ちて始めに刷いた淡紅色の白粉と後から擦た薄い純白の白粉が程よく皮膚へつきまして濃くも淡くもない美しいお化粧振になりますから指に手拭を指さきへ捲いて生際の毛や眉毛、睫毛、唇についた白粉を輕く拭とつて最後に水紅を下唇の內側へつけて一寸香で眉て置ますと程のいゝ赤味がいつまでも剝げずに顏のお化粧を引立てます。此が西洋風に近い化粧法でございます。和風の方にしますと白粉下を拭取つた後へ煉白粉を漸う流る程の薄さに溶いて襟からかけて少つと塗り此を牡丹刷毛で叩きぼかして置て次に水刷毛を使ひます時に淡紅色の煉白粉の薄く溶ましたのを一寸刷毛先だけへ含ませて丁寧に水刷毛でならしもう一度白粉氣を除いた水刷毛でならし、その上を叩き刷毛で叩きならしますのです。それから生際や眉毛を拭取りますのは西洋の際と同じでございます。最後に鼻叩き刷毛でつくろへば美しい和風の化粧になります。兩方共中々すんなりとそつのない樣になりますには熟練を要しますし土臺になります地肌が整つて居なければなりませんから毎朝の洗顔毎日の入浴に必ず肌膚に適ますミツワ石鹼を使て地肌を整のへる注意が大切でございます。



▲小織桂一郎曰く 私共は職業がら毎日お化粧いたしますが、此の習慣は女方にもおすゝめしたいと存じます。此の時に剃りますと際におすゝめしたいのはミツワ石鹼でございます。小さい容物の中へ堅から出しまして、用た丈だけ振出して、剃刷毛につけて塗つて擦りますと、極細かい泡沫が白く立つてゐて芳香がしますから、此の泡沫を削り取る樣にしますと皮膚は荒れずに苦もなく剃れて行きます

(ミツワ文庫五の十)

……郡の名十四萬五千多を最多とし各郡總計(忠州郡を除く)七十七千多に達したり之れに報告未著……

……十分頃列車が龍山驛を發し高陽郡龍江面東幕下里を進行中同里の擔軍吳明甑(七)なる者線路に……て取調中

● **暴風警報**(十一月九日午前十時發) 風强かるべし▲低氣壓位置 九州南方海上▲低氣壓示度 七百五十六耗 ▲警文

……三浦准一、……三好製夫、同政子、西田すゞ……大崎亀吉、吉田峰吉、高谷亀、松田はつ、戸井か……たし今野さし、同しず子、同英夫、同勘六(八△三等)……百名二十七名

△馬新刊小說とかけて 十四日 同 十五日 同 十六日
△大國新付……汽車と電車と自動車と 同 十五日 同 十六日

一週間以內に……十錢書籍券を呈す(但何書何號と明記に限る)

報 へれ

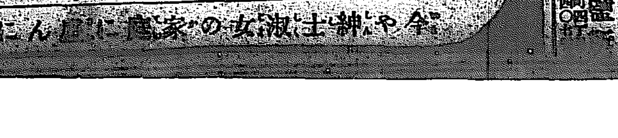
科學的純良なる 歯磨 ミカキ ハ
今や紳士淑女の家庭に盛んに愛用せらる

期 致富之捷徑 大阪堂島米穀取引所仲買人 今延商店 電話

盬 各種食鹽販賣 龍山製鹽 龍山元町 電話

廣島名産 山まゆ織 新柄品 髙橋光時商店

八木田博士御處方 島田博士御鑑査 アナタの胃病はマーゲンで治る
強胃消化錠 本劑の特色
大阪市東區上本町



宮本武藏

第二百十一席　桃川如燕口演　浪上義三郎速記

前九年後三年の戰に奥州の安部宗任が八幡太郎義家に降參をして都へ引かれました時に、或る公卿が梅の折枝を宗任の前に突きつけ、是は何ぞと云つた時に宗任カラ／＼と打笑ひ我が國の梅の花とは思へども大宮人は何と云ふらんと申した名高い歌がある、それを甚五兵衞あてつけたので、公卿も癪にさわつたから筆を執てサラ／＼と書いて甚五兵衞の前に突きつけた、見ると

そんたらが思ぺには　もんならお祭りをざんねことゝたまげ申さん

と云ふので祇園の祭禮に來たといふのを聞いて奥州の方言で歌を書きあてつけた、スルと甚五兵衞が直に筆執て脇へ書いたのが

とゝゑらい評判ほどによう(で)けた　さうじやさかいの祭り見に來た

と認めました、流石に口の惡いお公卿樣もとう／＼我を折つて逃げ出してしまつたと云ふ話しがございます是政宗が慕いから家臣に皆文武二道の達人が出ましたもので、斯ばかりの政宗侯も若年の折には過がございます、最も人といふものは年老てから若き時のことを考へて見ると腋の下から汗の出るやうなことが幾らもあるものでございます、未だ此の政宗侯が年十八歳甚五郎と云はれた頃は奥州の梁川と云ふ處で僅に五萬石を領して居りました、或年十二月の中旬大雪が降りまして政宗は雪見をいたさんと梁川の城内の物見へお出になつたが、戸障子を掛け拂ひ座敷を吹通しにして、酒は冷、肴は水貝、盃を擧げて降り積る雪景色を御覽なすつて居る、寒からぬほどに見て退け際の雪、餘り永くなると冷えてしまひまする、御家來方が内々弱つて居るが、癇氣の政宗は喜んで居ります、稍半日ばかりと云ふものが此處に居りましたが、愈々御殿へお歸りと云ふことになつて、お供方は、バラ／＼先へ立ちて參りまして、「殿の御歸り」と呼ばる、茲に當日殿の御下駄を持つてお供して參りましたは常陸國眞壁郡眞壁村の出生眞壁平四郎といふ者、當年十九歳の若者であるが殿の御下駄を持つてお供をいたし御座先の沓脱の傍に控へて居りました、其處へ御下駄を直して置いたが、せめては此の下駄へ暖みをつけて置いたら宜からうと思つて右の下駄を手拭で巻いて懐中へ入れ人肌を以て最前より暖めて居りました、宜い工合に下駄が暖つた處へ殿樣お歸りと聞いて平四郎は右の下駄を懐中より取出して、沓脱の處へ直して置きました、暫くすると膝五郎政宗其處へ出て參り直つて居る下駄を穿うとして片足をかけると、下駄の表に温氣がございますから、ハヽア此の下郎、供待の間予の穿物へ尻を載せて居つたな、憎い奴じやと思ひ

政『コレ下郎、汝は予の穿物へ尻を掛けて居つたが』

平『恐れ入つたるお咎めでございますか、決して腰を掛けた譯ではございません、此の寒さにお下駄の表が冷て居りますから手拭に巻いて内懐中へ入れまして下駄の表に暖りをつけて置きましたので然るに尻を掛け居つたとのお咎めは恐入ます

政『ヱー汝下郎の分際として主に對つて不禮の口答、斬捨る奴なれど免して執らせる、以後の懲戒期くいたしてくれる』と縁側から飛び下りざま足を揚げて平四郎を蹴仆し、起上らんとする所を政宗下駄を取より早く平四郎の眉間の邊りを丁と打てば、眉間は破れて血は迸出る、アッと云つたが其儀氣を失つて其處へ仆れた、政宗は下駄を打付けて以ての外なる形相にて御殿へお歸になる、家來も氣の毒とは思つたが誰一人跡へ殘つて介抱する者もございません、稍暫く平四郎は雪中に倒つて居たが稍あつて息を吹返し、起上つて見れば白砂の雪は唐紅と變じ、衣類は破れ髪は亂れ半面に流るゝ血汐を拭ひつゝ、無念の涙つた血染の下駄を手に取り上げて平四郎は城中を睨んで居つた

書画用 七綾絹 京染呉服商 たまや出張店 電話二一九六番

内科 小兒科 婦人科 京城醫院 村上憲佑 本町二丁目浦尾旅館前電話七四二番

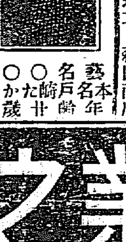
内科 小兒科 院長 醫學士 森定吉 京城本町三丁目瓦斯會社向側 芙蓉醫院 電話二六二三番

十一月十一日 九星 舊十月十六日壬子 本命三碧 東除先勝

▲三碧 障なく順に來る事多る日新事見合坤の方は吉 結納東▲四緑 快よき日轉居開業入學名乗披露求職建築婚禮衣服縫ひ等吉▲五黄 一口することも有る日新事手控窺事は吉 婦人の事せわを為す勿れ▲六白 油斷大敵の日新事手控窺事は吉 衛生に注意せらるべし▲七赤 おしつけ主義の事有る日新事手控窺事は吉 買物に用心せらるべし▲八白 兄弟爭を生ずるが如き日新事手控窺事は吉 仲間の日入事せねがよし▲九紫 好機を得る日轉居入學命名披露結納求職婚禮鑛山業等萬吉▲一白 優柔の日轉居開業求職 萬吉▲二黒 剛子の征ふ事有る日注意新事手控窺事は妨なし

酒煙草きらひになる藥 禁酒丸……禁煙液…… どんな酒煙草のみでも害なく心からいやになる 郵券二錢送れば説明書及大澤博士の禁酒禁煙論進呈 其他名士 大阪市靱南通二 本舖 森田商店

懸賞尋人

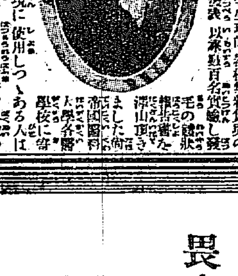


本年廿一歳 名 戸崎○○ ○かた らか

懸賞金參拾圓 原籍靜岡縣加茂郡稻梓村字箕作二十番地 戸崎清太郎長女 前釜山牧ノ島常盤方から事現在龍山に居る所不明に付居所通知又は逮捕者には賞金として前記金額呈す 右の者北安東にも居住せし事あり 龍山榮町(電話五二三番) 入船樓事 戸田長次

たむし 水虫 治癒 良劑 田虫、いんきん、皮膚病も快治す 日本薬は純白色の水藥故身体衣類へ色附かず 價十二錢 廿錢 三十錢 五十錢 一圓 送料四錢 本舖 名古屋市 小林盛大堂 大阪平野町小林大藥房 東京 全國藥店有之 直ぐ試みられよ

毛なき人 ◎發毛器の發明秘密に出來る輕便な器械を無料で貸與す 何んでも美の第一なる髪の毛が薄き人、毛のわける人、眉毛の薄き人、あるべき所にない人、禿頭、ひふ病、發毛生理的器械無料貸與の上目的を達する療法以來數百名實驗し發毛の證狀 帝國醫科大學各醫學博士



りん病 消渴で困る方 多年の慢性も 自宅にて人知れず安全秘密に治癒す 良藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ 其良藥と自宅療法の詳細を教ゆ 名古屋市南かじや町 武藤龜吉

衛生必携品 ルーデサック A十個四十錢 B十個六十錢 廿五錢女用一個 上形一割 郵券代用一割增 外に要送料 京城黄金町三 振替京城三三七番 山田文殊堂藥房

壹劑 論より證據 用ゆべての立證 用て知れ 効驗 腦 明快に精力增大英才成功 貧 血腎虚夢精遺漏衰弱症 陰 忘氣鬱等に特効有試よ 滋強丸 男女の證 病試よ 直 全國到る處の藥店に有 一週八十五錢 三週二圓廿錢 七週五圓廿錢 東京築地二 ダイカー商會 振替八六〇

實業之日本社 實業講習錄

總裁 大隈侯
顧問贊助員 法學博士 新渡戸稻造 文學博士 高田早苗 大倉喜八郎 安田善次郎 其他名士數十名
副總裁 澁澤男

新學期開始

△銀行員の― △會社員の― △商店員の― △小學卒業生の― △獨立實業家の― △實業に志す人の―

立身出世に必要缺くべからざる學科を悉く集め誰にも假よく分るやうに面白く名をつけてあるから職業の餘暇に學校へ入つたと同等の學力が養はれる安全第一の出世の近道はこれである。

大正の新時代は實業の世の中 志ある者は速かに來れ

會員大募集

◎只今の入會者に― △大特典あり △入會金免除 △奬學資金提供 一等三十圓二等十五圓三等五圓 其他種々の大特典あり くわしい事は見本に有り

◎見本代無進呈

◎學科 △商業簿記 △銀行簿記 △商事要項 △商業英語 △商業作文 △商業數學 △珠算暗算 △商業實務 △商業地理 △經濟講話 △商品學 △商業習字 △實業史 △處世法 △外國語話

會費 一ヶ月分五十錢 三ヶ月分一圓四十五錢 六ヶ月分二圓八十錢 一年分五圓五十錢

東京市京橋區南紺屋町二十 實業之日本社内 帝國實業講習會 振替東京一四〇六番

見よく勿見落!! 此廣告を!!

◎精力の旺盛を望まるゝ人
○家庭の圓滿を望まるゝ人
○子孫の繁榮を望まるゝ人
○一族の健康を望まるゝ人
―は

畏くも伏見親王の御宮家を始め奉り宮城内大臣府内龜井東宮侍從職、久我侯爵家、其他多數貴顯方の御用命を拜しつゝあるは朝鮮人蔘界の大王

純人蔘精腦を召し上れ

精力忽ち旺盛となり、總ての疾病に對する抵抗力を强大にす

○主治効能
○精力虚弱 ○老衰、病衰 ○神經衰弱 ○産前産後の衰弱 ○一般婦人病(月經不順、頭痛、憂鬱症、ヒステリー、腰腹の痛、冷症)ゝ ○神經痛 ○腎臟炎其の他臟器病並胃腸障害 ○外傷 ○皮膚病、骨筋の痛 ○痔疾(殊特效あり)

○定價(其卓越したる効能を社會に普及する爲當分特價二割引)
○十日分 五十六錢 ○三十日分 一圓四十四錢 ○六十日分 二圓五十六錢
○九十日分 三圓六十錢 藥局用五百日分 十七圓六十錢 ○千日分 三十圓四十錢

◎御注文の方法
○電話一三〇九番又は葉書にて御申付あれは直く御屆致します又病家の見舞品歳末の贈答品として内地等へも當所から御屆申上ます
○代金は御勤の方は俸給御受領後其他の御方は御都合に依り御需に應します
○又多數御申合せ一時に三十圓以上の御注文の場合は更に定價の五割引にて御相談致します
◎人蔘應用家庭茶菓用として人蔘砂糖漬百目入七十錢 人蔘水飴百目入七十五錢 二百目入一圓三十錢 二百目入一圓四十錢をも販賣致して居ります
▲取次販賣店御望の方は一ケ月の販賣見込高記入の上御申込あれ

朝鮮京城府長谷川町五八番地
朝鮮製藥專賣所
電話一三〇九番 振替京城三八一〇番

[illegible]

（明治三十八年九月十日第三種郵便物認可）

京城日報

十日朝刊（夕刊と合せて八頁）

京城太平通一丁目　發行所　合資會社　京城日報社
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川三之介

第三版

日露關係　京城日報

一昨年歐羅巴大戰役開始以來、日露兩國間の親交益々親善を加ふるものあり、是れ露國として最も鄭重すべく又最も信頼すべきは、我日本なることを現實的に諒解し得たるが爲めならざるべからず、獨り此戰時關係のみを云はず、大凡日露兩國民間に存する一切の事は、之を機會として其大本を定むべきなり。

近頃我國民中には、露國政府が輸出入制限運輸交通制限等の令を布きて、我商業工業上の不利を釀すことを非難するものあり、親交國民間に於て相互に利便を圖りて、其の及ばざるを是れ捉はざるべからざるに、斯く種々の故障を惹起すは甚だ面白からず、此點に就ては吾人も亦至極同感たりとすも、何を申すにも露西亞は目下大戰爭最中にて背に腹は替られざる境遇にあり、其貿易及び交通の制限の如きは畢竟彼の國の爲めに已を得ざるに出でたるの事なり、彼は自國民の消費を減じ、及び其國內の正貨を擁護して、其の流出を防ぐに是れ急なり。此自衞策は則ち偶ま我國民の不利を釀す所以にして、此事や獨り露國のみと云ふべからず、英吉利の如きは、我同盟國として其運命を共にするものなるに拘はらず、其商業政策に依りて不利益を我國民に及ぼしつゝあるもの、甚だ多きを思ふときは、我亦露國民の爲めに大に寬假する所なかるべからず。露國は我日本に就て其兵器軍需品の供給を求むるのみならず、既に二回までも我國內に於て大藏省證券を發行し、更に第三回證券發行を爲さむとす、是れ皆軍資と云ふにあらずして、只我と露國との間の爲替を調節し、露國の正貨の流出を防止するものなり、今日歐羅巴の交戰國は、皆其輸出減少し其輸入增加せる爲め各國其正貨流出防止に努めざるはなし、北米合衆國政府は、歐羅巴交戰國民の軍事公債を米國內に發行することを禁止したれども、此種爲替調節公債、即ちエキチエンジローンを發行することを認容す、過般英國政府の發行したる公債は總金額五億圓にして、其抵當として提供したる有價證券實に六億圓以上なり、最近佛國政府の紐育にて發行せるもの、亦其總金額に相當する有價證券を抵當としたりと云ふ、其利率は五分と稱するも手取金は九千以內なりと云へり、英佛諸國に取りては空前の高利なりと謂ふべく、彼等が斯る犧牲を忍びてまでも、外債を發行する所以のものは、皆是れ其國內の正貨の流出を防止するの必要に出ず、戰時人心動搖し易きの時に當りて、其信用の基礎を爲すものは、則ち其中央銀行の正貨準備なり、開戰以來英佛露諸國の正貨準備が夥しき增加を示したるは畢竟諸國政府が有らゆる手段を取りて正貨を集積し、及び其流出を防止したるに是れ由るべく、露國政府が日本に於て、數ば證券を發行し更に日露銀行を設けて、相互の金融の調和を圖らむとする、亦其故なきにあらざるなり。

朝鮮の古城郭（三）　八木奘三郎

（四）歷代城郭の變遷（承前）

（丙）伽羅國時代の城郭。伽羅國は夙に我日本に交通し事せし邦にして大伽羅國其盟主なりしが如し、然れども此國微弱なるが上に、羅、濟兩國の間に介在して、後年新羅に併合せられし爲め、其國情と記錄とは早く湮滅に歸して世に傳はらず、故に邦人は彼の古事記、日本書紀等に載する記事を以て唯一の資料となし、韓人は駕洛國記を以て稍や纏まれる歷史となせり、其他三國史記にも稀れに關係記事を揭ぐれども皆な片々たる斷片に過ぎず、去れば此國の城郭に就ては又羅、濟、麗三國の如くに判明せず、然れども幸ひに多少の遺跡存するが上に、前記の古記錄殘れるによりて、今夫是を綜合して、左に當時の城郭を略叙す可し。

駕洛國記を按ずるに、此國の四至を叙して、東以二黃山江一、西南以二滄海一、西北以二地理山一、東北以二伽耶山一、南而爲二國尾一と云へり、伽羅國の範圍は前後によりて多少の伸縮ある可しと雖も、大體は右の地域と見て不可なかる可し、而して其始祖金首露は後漢の世祖光武帝の建武十八年に生ると稱せども、其確否は不明なり、唯だ此國は我崇神帝の六十五年に來貢せしにより其建國の古きことは略ぼ推測し得らる可し。但し三國史には婆娑王二十三年の條に始めて金首露の事を載せたれば三韓中其起源を尤も後に引下げたる分と謂ふ可し、併しながら是等の可否は史家に譲つて先づ城郭の例を曰んに駕洛國記には首露王の條に次の如く記せり。

二年癸卯春正月、王若曰、朕欲レ定二置京都一、仍駕幸二假宮之南新畓坪一、四望山嶽、顧二左右一曰、此地狹小如二蓼葉一、然而秀異（中略）托二一千五百步周迴羅城、宮禁殿宇、及諸有司屋宇、虎庫倉廩之地、事訖還宮、徧徵國內丁壯人夫工匠、以二其月二十日一、資始金陽、暨二三月十日一役畢、其宮闕屋舍、候二農隙一而作之、經始于厥年十月、逮二甲辰二月一而成云々

之れ都城經營の始めにして、其位置は山嶽の圍繞せる盆地に似たり、然れども伽羅の都せる金海の地は其實山嶽三方を圍みて海に面せる一方は全く平坦なるを以て普通の盆地とは同じからず、唯だ其實地と古記とを對照して考ふるに一の平城たりしことは略ぼ推測し得るが如し

鶴巢居より一筆　蘇峰生

京城北門の旅、鶴巢居より一筆申進候。扨說も廿八日午後四時、馬關直行汽車にて、新橋を發して以來。國府津迄より斜風細雨と相成、翌廿九日夕、關釜連絡船に上る迄、風雨の中を夢過致し候。山陽一路、田は三分通りの收穫にて、黃禾穰々、柿葉は深紅、楓葉は淺紅、公孫樹は淡黃、楷や、櫟は濃黃。但だ雨窓密閉、雅客喫煙の雲、濛々として人を燻殺せんとす。予は獨り喫煙室に立て籠り、『ヘンリー、ライクロフトの覺帳』を閱讀致候。喫煙室に煙禍を避くるも亦た一興ならずや。

山河百里雨所宿。正是清霜染レ葉初。風雨連朝殊不レ惡。車窓靜讀菜君書。

菜君は、ライクロフト也。船も舊知也、馬關にて櫻丸に乘る。船員も概ね舊知也。但だ此際に遺憾なりしは、我が丁吉治君を見ざると是れ也。君は關門間の新聞記者中の元老にして、正しき意味に於ての予が鄉友也。何となれば君が家と予が家とは、與に熊本縣葦北郡水俣たりしを以て也。而して君は我が洪水翁の門人にして、且つ予が門人也。明治四十三年九月以來、予が京城東京間の往復毎に、馬關に於て、恒に予を送迎し、出船出車の數十分乃至數時間を、談話新の際に經過するを以て、常例としたり。即ち本年三月に於ても、然かせし也。君は門司にありて、早朝、夜間、態々此れが爲めに馬關迄出張し、定めて大儀なりしならんも。予に於ては此の舊友と相見るを、一の樂となし、偶ま君が病若しくは旅行の爲めに、相見ざる時は、悵然として樂しまざりし也。然るに豈に料らんや本年の夏、不歸の客となるらんとは。

埠頭相送復相迎。一路依レ君慰二旅情一。秋雨今宵君不レ見。祇聽風浪拍船聲。

航海は近頃珍らしき大荒にて、三十日午前八時半、釜山港に入りて、始めて食卓に就き候。同行の西村生の如きは、半死半生の態にて有之、數名の外客も、餘程閉口の樣子にて、頻りに食卓に於て、小生に夜來の苦惱を訴へ申候。遲著の爲め、無佛社長の爲めに、船迄迎襲せられ候。朝鮮は流石に晴天、沿道の收穫も、殆んど終らんとし、秋櫻も半ば零落し、公孫樹は今を盛りの金冠を戴き居候。大分水害の痕も相見申候。斯くて例刻に南大門に著、例の如く社友其の他に迎へられ、先づ新築の京城日報社に立寄り、一通り巡覽し、闌干たる天上の星斗を帶びて、鶴巢居に入りたるは、午後十一時過ぎと相成候。恰も是れ王摩詰が『籬間犬迎吠、山村人夜歸』の光景にて、出迎の提燈にて、石逕を辿り、直ちに燭光にて、庭園等を見廻り、雨脚を伸ばして、熟眠致候。今曉覺め來れば、又たしも雨聲を聞く。窓を排して見來れば、屋を繞れる櫟や、楓の落葉の聲也。乃ち小生も今や詩中の人と相成、曉禽囀の音信を聞きつゝ、擱筆致候。匆々不一。

大正五年十月卅一日午前六時

朝鮮と別るゝに臨んで　東拓前途の多幸を祈る（下）　井上孝哉氏談

本來東拓會社の事業の範圍は頗る廣く、從つて會社に對し社會より要望せらるゝ所も亦廣く、實に各般の方面より多種多樣なる要望が、會社に向つて殺倒した。或は會社たるものは土地を多く所有して居る故、須らく土地改良の目的を遂行すべしとの希望を以て迫る者あれば、或は之と反對に、東拓が土地を多く所有するを不可なりとして要望する者もあるし、或は鮮人同化の爲めには移民を多く招致するを不可なりとする希望もあるかと思へば、或は之と反對に移民は成るべく多く招致せねばならぬとの注文もある。斯くの如く社會の各階級各方面より各々異なつた希望が蝟集し來るところの會社であつて各般の要望に對し相當の滿足を與ふることは、頗る困難であるが、能ふべき丈け社會の希望に副ふことについては宇佐川氏の後を襲いで吉原氏も日夜非常な苦心を重ね來つたのである。更に又別個の方面より相反する說を生じた事は特に茲に一言せざるを得ない、其說によれば、東拓會社には特殊の事情を生じた、即ち會社創立の後に日韓併合が行はれた事は會社存立の目的意義に大なる變化を及ぼすべきものにして、會社の執るべき針路は當に一轉化を來すべしと云ふ論があるかとすれば、一方には之れと反對に、日韓併合の後と雖も會社の目的は實質上前途少しも變ずべきものでない、併合は何等會社成立當初の目的に事實上の變化を來すべきものでないと云ふ議論もある、前に擧げた多方面の要望に加へて斯の如き相容れざる說を生じ、從て世間よりの非難攻擊は勝手放題に會社當事者の身邊に集注し、當事者の苦心は實に一方ならぬのであつた。而して一方に於ては、近く日本の勢力が滿蒙に伸び來りしにつれて、東拓の使命も亦滿蒙に發展せざる可らずとの當然の論結を來し、之についても吉原野田正副總裁の如きは最も盡力されたのである。此間の消息は未だ會社の法律が改正されぬ今日に於ては多く語るを得ないが、實は之に對しては會社當事者は尠からず考慮を費やし計畫を進めつゝあつたのである。

それは兎に角として、前總裁吉原氏は幾多の困難の前に克く忍耐しつゝ八年の長き歲月一意專心、殆ど他を顧みるに遑なく、忠實に熱心に勉勵して盡瘁されたのであるが、如何せん、元來脆弱な健康が餘り强からぬに加へて、近來宿痾の爲めに太く惱まされ殊に昨年議會に於ては法律案の提出しにかる至つて、心中實に其職責の重きを感じ、意を決して引退を願出でゝ茲に御聽屆けを得たのである。而して會社が漸くにして將來益々發展の運びに向ひ、其の成績の今日既に見るべきものあるを期待しつゝ引退するに至つたにつけ、其心事や察すべし。但だ併し乍ら今日に於て退かれた事は誠に其の時期を得たものと思ふ。會社も昨年、一昨年の如き、穀價の非常なる暴落を來し、土地の生產物の價値が少なく、會社の計算が困難の場合に引退して、他人に引渡す事は、頗る苦痛であつた筈であるが、本年は幸に會社の營業成績も近年になき好都合となつて居る時であるから、此時に引繼ぎをして、徐ろに閑暇靜養される事は恐らく吉原氏の本懷とする所であらう。殊に後任として良總裁を得られ、尚ほ他の重役も、世間の噂の如くならば、洵に適材を得られた事である故、會社の將來も大に期待すべきものであるべく、吉原氏も今日京城を去るに臨んで、思ひ殘す事はないであらう。敢て遺憾とする所はないであらう。

大藏會（下）　大阪にて　青霞生

▲陳列せる天龍寺版は應安嘉慶明德の年號ありて足利義滿の時代のものなり、而して一つ政和癸巳といふ干支を記したるものあり、是は研究を要する年號なり、多分文和二年のことならんが、それにしては同じ一部（華嚴今論）の書を刊行するにつきて前後二十年の隔たりありて餘りに年數の差違甚だし、しかし全體の藏經が四十年間を要したるものとせばその中に無論文和の年號も含まるゝ譯なり、僧氏刊行の大般若六百卷は今橫濱の原氏の所有に歸し居る由、それには觀應の年號を刻せり

▲宋の元豐三年に始まりたる東禪寺版の各種の年代のもの多く陳列せらる、東禪寺版と開元寺版とは同じ宋代に同じ福州にて開板せられ、而も從來の宋版は多く二種を合せて一副（大藏全部を一副といふ）とせしものにて、二寺合して一副が別々に一副づゝ完成せられしかは問題なるが全部通じて東禪寺の彫造（但し大般若を除く）に成るものが醍醐の經藏に存在せるよりいよ〳〵別種のものなること分明し而も多くの彫造が二十年もかゝりて之を完成したるのよりその幹事の僧が代り彫造者、寄附者等相踵いで前烈を繼紹したる事など經藏の前後に記載せられ一見して當時の困厄と佛弟子の努力とを偲ぶに足るなり

▲明版は年代よりいへば新らしけれど北藏勅版といふ大字大紙の藏經がこれ迄我國に渡來したるものなるか否や分明ならず、之を見たる人もなかりしが今はその版式を見る事を得るに至れり是も緇釋氏稽古略などの記事と比較し其の行數等の精密なる研究には好材料を與ふるものといふべきなり

▲高麗版は何人も同一種のものと思へど（もその實は高麗に二種の勅版あり（三種說あれど今取らず）今日海印寺に存在するものは高宗朝の勅版にして今より七百年前のもの、今回の出品中高麗版の珍本あり、泉涌寺所藏大般涅槃經一帙十帖並に同寺所藏大藏目錄三冊にて昨年寺內の高麗の原版を取出して僅に三部を印造し其の一部を先帝陛下に奉獻したるを同寺に御下賜相成りたるものなり

▲これより古き高麗最初の彫刻は今より約九百年前、顯宗朝に始まりたるものなりしが、而してこの最初の彫造のものは今日世に存在するや否を疑はしむ、先年京都大學にて西域記出版の時に計らずも南禪寺經藏より發見せられ、而して其後の探究によりて獨り西域記のみならず尙ほ多くの經典存在すること不明となり昨年の大藏會に陳列したるが今回も亦異りたる經典を出陳せり

▲大藏版の中にて新式の鉛字版となりしは淸朝の頻伽精舍版と日本の卍字弘敎二本なり、昔の木版彫刻が十年以上も費し苦心慘憺したるに比較すれば是等活字印刷は何れも三、五年の短年月にて完成せるなり

▲單行刊本は大藏經の如き大事業にあらずとも古人が法寶尊重のためにいかに身心を勞せしかを偲ぶ材料となり且つは是等古人の努力によりて幾多の經卷が大藏外にありて保存され宣布されしかを偲ぶに足る

▲完全に大藏全部の寫本を貯藏する經藏、少く今日世に知られ居るは石山寺の經藏が最も完備し居れど是とて約半數位のものにて而も各部に亙りて完全ならず、たゞ年代が奈良朝より足利時代迄に亙りて種々の人の手に成りしものが存在せるより書法の研究上よりも大に珍重せられ居れり、それより法隆寺の一切經の印を押したる經が世に流布せられおれり是も無論昔は全部法隆寺にありしが今日は殆んどその十分一を存するのみなり、昨年大藏會の際發見したる水火興聖寺のものはやゝ完備せり平安朝の始めより鎌倉時代に亙りて書寫したるもの八分、又大德寺經藏にも珍らしき古本四分通り保存せらる是等各種のもの各年代を異にして多數陳列せり

▲尙敦煌出土の寫經は版本の外に寫經も陳列せり、其の最も古きは六朝時代の物松本文三郎氏所藏の大般涅槃經卷第八一卷より唐末に至る各種のもの等有益なる出品多かりし

日報詩壇

○太和樓小集　安東　犖雲
同人酌酒倚南樓。談笑情濃斷客愁。乍動吟魂敗牆下。胡枝花發滿庭秋。
評曰　即景入詞太佳

○天長節恭賦
維武維文國礎堅。克忠克孝大倫全。天長地久吾皇壽。先唱九如詩一篇。
評曰　語出于衷誠聲之至

▲下げ止り手　大阪の……十三圓四十一錢……

▲能く賣る

平均値段　一節　十三圓四十一錢　二節　十二圓四十八錢　三節　十二圓四十八錢　四節　十一圓四十一錢
出來高　二萬三千四百五十石

●賊の巢窟を衝く

釜山市內各所の倉庫商店等にて商品の盜難被害頻出するより釜山警察署……件に連せりと（釜山）

公告

左ノ不動產ヲ左ノ日時ニ競賣ニ附ス
入札保證金ハ申出額ノ十分ノ一トス

●京城府竹添町參丁目五百貳拾九番地
一、垈五拾壹坪
最低競賣價額金百〇貳圓也
京城府蛤洞七拾參番地
一、垈拾九坪
最低競賣價額金參拾八圓也
右　競賣申立人　田村俊次郎
　　不動產所有者　山本忠正

●京城府寬勳洞五番地
一、垈五拾六坪
最低競賣價額金參百九拾貳圓也
右地上ニ建設
一、木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪貳拾五坪九合五勺
附屬　木造洋鐵葺平家建壹棟
此建坪壹坪七合五勺
最低競賣價額金百四拾八圓五拾錢也
右　競賣申立人　[illegible]
　　不動產所有者　[illegible]

●京城府觀[illegible]洞百五拾貳番地
一、垈六拾貳坪
最低競賣價額金百七拾四圓也
右地上ニ建設
一、木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪貳拾參坪七合六勺
最低競賣價額金百七拾六圓也
右　競賣申立人　[illegible]
　　不動產所有者　[illegible]

●京城府大和町壹丁目參番地
一、垈九拾八坪
最低競賣價額金貳千百七拾八圓也
●京城府永樂町貳丁目拾七番地
一、垈百七拾七坪
最低競賣價額金四千九百五拾六圓也
●京城府觀水洞百貳拾六番地
一、垈參百貳拾坪
最低競賣價額金[illegible]
●京城府本町參丁目參拾八番地
一、垈[illegible]坪
最低競賣價額金五千百參拾圓也
右　競賣申立人　株式會社漢湖農工銀行
　　不動產所有者　井出三郎

●京城府壽町四拾壹番地ノ壹
一、垈貳百四拾七坪
最低競賣價額金參千八拾七圓五拾錢也
右　競賣申立人　株式會社京城銀行
　　不動產所有者　井出三郎

●京城府惠化洞百六拾參番地
一、垈壹千百九坪
最低競賣價額金六百六拾五圓也
右地上ニ建設
一、木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪貳拾四坪七合八勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪八坪四合參勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪九坪四合壹勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪四坪九合四勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪六合四勺
最低競賣價額金五百貳拾八圓也

●京城府武橋町五拾六番地
一、垈百七拾六坪
最低競賣價額金貳千貳百八拾八圓也
右地上ニ建設
一、木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪貳拾六坪四合
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪壹坪六合貳勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪貳拾六坪七合五勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪[illegible]
最低競賣價額金五百八拾五圓也
右　競賣申立人　株式會社漢城銀行
　　不動產所有者　趙秉深

●高陽郡漢芝面普光里九拾六番地
一、垈壹百拾壹坪
最低競賣價額金百拾壹圓也
右地上ニ建設
一、木造瓦葺平家建本家壹棟
此建坪貳拾六坪貳合四勺
附屬　木造瓦葺平家建壹棟
此建坪壹坪九合八勺五才
最低競賣價額金百五拾參圓也
右　競賣申立人　三好唯吉
　　不動產所有者　朴基成

以上競賣期日ハ大正五年拾壹月貳拾日午前拾時トス

京城地方法院

購買

一、雨覆　貳拾枚
詳細ハ十一月十日朝刊以降ノ朝鮮官報ニアリ

龍山陸軍倉庫

見習生募集廣告

本局製圖見習生約三百名試驗ノ上採用ス志願者ハ來ル十一月二十五日迄ニ願書ニ履歷書及民籍謄本ヲ添付提出スヘシ詳細ハ本局ニ就キ承合スヘシ
大正五年十一月
臨時土地調査局

新刊圖書御案內

書名	著者	定價
殖民原論	永井柳太郎	六〇〇
債權各論前編	潮見一郎	六〇〇
無過失損害賠償責任論	岡松參太郎	四、一五
物權法提要第一冊	三潴信三	一七〇
戰後の經濟政策	服部文四郎	八五
現代歷史を造る人々	鵜崎鷺城	九〇
人心解剖彼等の本音	横本恒太郎	七〇
英國日本昔噺	鷹谷小波	一〇〇
白秋小品	北原白秋	一、〇〇
印象派以後	木下杢太郎	一、五〇
我觀南國	山本實彥	一、五〇
立志訓	村上專精	一、四〇
舜	物來村井知至著	一、二三
給入訓話	大町桂月	五〇
宗演禪話	釋宗演	九〇
ロープ死後の生命	中村古峽	一、三〇
ゆかり文庫	泉鏡花	一、五〇
大正六年度日誌いろ〳〵	澤山著荷仕候	

京城本町二丁目　電話一一六六番　振替京城二四五四番
巖松堂書店

外交員及女事務員

至急採用す希望者は履歷書携帶午前中本人來談あれ
京城初音町十六番地
報知新聞京城支局

前朝鮮總督府總務局長伯爵兒玉秀雄君來鮮に付左記方法に依り送別園遊會相催度候間御賛同被下度候
十一月八日

發起人（イロハ順）
石塚英藏　荻谷籌夫　白完赫　趙鎭泰　岡本桂次郎　岡野正功　岡谷省奭　金美勝充　高佐兵三　宇口太夫　山永武衛　松山耕吉　牧分三藏　國宮三保亥　小山雅之松　秋村雄介　本行猪太次　執木郎　鈴木穆
原田金之祐　原勝一　趙重應　李完用　小原新三　荻田悅造　大垣丈夫　韓相龍　中村再造　山形閑　大和與次郎　馬詰次男　藤川利三郎　小城齊　古城菅堂　阿部充家　白水淡　持地六三郎

記
日時　十一日午後二時
會場　朝鮮ホテル
會費　參圓（當日御持參の事）
申込　十日正午限　總督府總務課（電話構內十一番）朝鮮ホテル

◎日支交涉事件解決
日支交渉は日本の要求を容れ解決することに決定せし旨九日國務院より張督軍に電告ありたり(奉天特電)

◎ウヰルソン氏優勢 選擧の結果尚不明
七日朝ウヰルソン氏は二十六州此の投票數二百四十八票を得ヒューズ氏は十五州此の投票數二百四十三票を得たり加州外三州は今猶不明なるも其の票數は四十票なり尚其の後の報道に依ればヒ氏は二百三十八票(?)ウ氏二百五十六票となれりウ氏更にミネソタ州にて十二票を得ば月桂冠は同氏に歸すべし又加州及びミネソタ州にて開票五分の一の結果はウ氏大多數を占めたるが要するに選擧の結果は今尚不明なり(桑港電報)
記者曰く 此の電報に依りて獎のヒューズ氏當選の電報の誤謬なりしこと判明せり

◎馮氏副總統就任式
馮國璋氏副總統就任式は去る七日午前七時三十分南京督軍公署に於て擧行したり式場には文武百官各省代表者等多數參列し馮氏は當選證書傳達使王家襄氏を仲門迄出迎へ共に式場に登り民國々旗に對し三拜す其れより各官民の祝辭を受け馮氏の答辭ありて式を終了す此の日南京市中は各官衙並に各戸國旗を掲揚して祝意を表せり日本側よりは清野書記生領事代理として參列し午後三時高尾領事は田賀中佐及大冶出張所長を隨へ正式に祝詞を述べたり尚當日碇泊中の軍艦及び北極閣にては二十一發の祝砲を發せり(共箭著電)

◎伍廷芳氏就任承諾
國會の承認を經たる伍廷芳氏は外交總長就任を承諾し九日午前入京に決せり(北京電報)

◎張督軍の鎭撫諭告 省民の警察權委任反對に就て
張督軍は日支交渉反對運動鎭撫の爲め奉天五十四縣に諭告を發したるが要領は日本の要求する警察權委任は警備の爲めにして決して國權を侵害するものに非ずされば省民は此の際緘默して當局を信頼し解決の時機を待つを要す若し其の曉日本が果して國權を侵害するが如きことあらば其の時に於て蹶起反對するも遲しとせず又機關紙東三省日報は我等は政府の交渉のみに信頼し能はずと痛説し益々反對の氣勢を煽りつゝあり(奉天特電)

◎支那留學生の交渉反對
奉天省出身支那留學生五十餘名は日支交渉反對を各團體に電告せり(奉天特電)

◎寺内兼任外相祝電
馮國璋氏副總統當選に付き寺内兼任外相は祝電を發せり(東京特電)

◎徵兵猶豫要點 來議會に提出
文部陸軍兩省間に於て屢々交渉を重ねたる徵兵猶豫に關する改正案は愈々來議會に提出することに決せり改正の要點は滿二十歳に達したる學生にしては一般に徵兵檢査を施行し專門學校在學者に限り滿二十七歳迄徵集を延期するに在り(東京特電)

◎吉長鐵道調印
吉長鐵道に關する日支兩國の契約改訂[illegible]るを以て近[illegible](東京特電)

◎元山各月金融
[illegible]業者は一般[illegible]に於ては概して內地貨は一般に買進[illegible]愈々本場の通貨に迫り仕込資金の[illegible]安逸永興滿原物等の新規需要を喚起すると繁繁にして[illegible]輸出四百九十三萬[illegible]四百九十七圓、[illegible]加の理由は輸出に於て大豆二十三萬[illegible]末に至る貿易額の累計は輸出千四百[illegible]四十五萬七千〇八十六圓輸入千二百[illegible]七百廿五萬圓に比せる幾[illegible]額を見るも本年は十一、十二兩月に於て幾[illegible]

◎閑院宮御西下
閑院宮載仁親王殿下には九日午前下關御到著直に福岡に向はせられたり(門司特電)

◎李堈公御參拜
李堈公殿下は九日夜入洛十日桃山御陵に參拜すべし(大阪特電)

◎大官續々西下
後藤內相、大島陸相、川村元帥、出羽大將、松川備戍總督及び外國武官十餘名は九日下關に到著孰れも福岡に向へり(門司特電)

◎特定運賃問題 一段落
五日仁川商業會議所に開催せる仁川、鎭南浦、涉里院等の大豆特定運賃撤廢聯合協會委員は同會の決議を齎らし既記の如く六日鐵道局に出頭當路者と面談せるに鐵道側に在りては今回の特定運賃は年來の希望の初めて實現されたるものにして即ち之れが爲め製産地對消費地との直接取引の途を開始し得たる譯なれば製産者に取り極めて便利の方法たる可きのみならず現に相當の效果を擧げ出廻旺盛を呈し居れる今日なれば之れを撤廢するが如きは斷じて不可能なり されど特定運賃の範圍を擴張するは當局に在ても異存なき所にして現に許可せる共益社同等の條件を以てするに於ては何人に對しても亦

▲同樣の許可 を與ふ可し但し斯くては大取引者のみ其の均霑に浴し小取引者は到底與り得ざる結果を見る可きを以て諸君は同業者を糾合して組合を組織し之れに依つて根本條件たる一箇年一萬石以上の數量を得て以て平等に均霑する可きこと

▲最上の方法 なる可き旨を懇諭せるに委員は大に之を諒とし共の主旨に於ては何等異存なきも只だ組合を組織するは今日不可能の事情あれば玆に有力なる一名の取扱者を選定し同人對鐵道局との契約に依り一同特定運賃の均霑に浴したしとの希望を述べ當局亦之れに異議なき旨を表して會見を了はり目下相互とも之れが實行方法に付き研究中なりといへば本問題も遠からずして圓滿なる解決を見るを得可し

◎清會線の一部開通
鐵道局清津出張所長 新田技師談

▲工費三百萬圓 清會鐵道中の清津蒼坪間三十二哩餘は工事竣工十一月五日より營業開始所要の工費約三百萬圓に及んでゐる、當初の計畫では尙ほ二三箇月早く開業する筈であつたが、時局の爲め軌道其他必要品の廻著が著しく遲延したのと昨夏大出水の爲め、其の水害經驗に基き工事設計變更の必要を生じた個所等もあり旁々遲延したのである、今回開通の區間は清會間の約三分の二で、蒼坪から先は茂山嶺の難工事其他トンネル多く費用も夥しく費やし骨も折れる、清會全線の開通は大正六年の秋となろう、此機に際し從來の經過を少しくお話しやう

▲陸軍の清會輕鐵 清津、會寧間は日露の戰後陸軍にて軍需品輸送機關に充つる爲め手押し式輕鐵を敷設したが、四十年四月一日より一般交通の用に供した、然し專ら軍需品輸送の目的を以て敷設されたのであるから、其後漸次改善はされたものゝ、其の輸送力は微弱而して危險の伴ふあり早晩普通鐵道に更るべきは自然の趨勢であつた

▲開通迄の經過 明治四十一年六月鐵道局は稻垣技師をして咸南北の視察をなさしめ大正元年九月更に予は命に依り清津會寧間の線路調査を行なひ玆に漸く清會線鐵道の具體的設計を得、大正三年度以降五箇年の繼續工事として施設の事を決し三十一議會により協贊を經たのである斯くして三年四月實測に著手し六月清津方面より順次起工、十月を以て清津建設事務所を設置し工事を進め幸ひに起工以來滿二箇年を經過し此の五日を以て清津蒼坪間の營業を開始するに至つた

▲施工上の苦心 開通線は全區間に亘り輸城川に沿つてゐるが、該河川は何れも河床勾配急で平時水量少なきも一旦豪雨に際會すると諸川の水位一時に增加し急流奔湍氾濫を逞しくする事少なからず直ちに地形に變異を來す爲め設計上の苦心は大方ならぬものがあつた、又此地方は冬期寒氣嚴烈夏は雨多く年中作業を繼續し得る期間は僅に六七箇月に過ぎぬ、加ふるに沿線は概して人烟稀薄なるのみならず鮮人の多くは勞働を嫌忌するの傾向あり故に人夫の雇傭は各受負人の甚だ苦慮せし所で只管地方勞働者出役の方法を講ずると共に一面京釜京義沿線の熟練なる人夫を招致し又特種技能ある支那勞働者を用ゐ以て豫定の工事を遂行するに努めた

▲主なる工事成績 今清津蒼坪間工事成績の主なるものを擧ぐれば土工約二十七萬二千坪橋梁を架する事四十八箇所延長四千三百二十呎、溝橋を設くる事五十二箇所隧道を穿つ三其延長一千七百二十五呎

◎北里袈裟男氏の寄附
帝國生命保險會社專務取締役北里袈裟男氏は過般來鮮の際防疫費として金一百圓を京城府に寄附せり

◎本野子通過期
露都駐劄本野大使は內閣よりの招電に接し家族帶同露都を出發したる旨は本紙既記の通りなるが大使一行は來る十七日午後八時五十分滿鮮直通列車にて南大門驛著同九時十分發歸東の途に就くべしと

◎廣梁灣鹽田近況
廣梁灣鹽田は客月二十日を以て本年中採鹽豫定額たる六千五百萬斤に達したるを以て秋季鹽田祭を擧行し職員職工の假裝行列行はれ頗る盛況を呈せりと

◎平壤煙草商況
平壤に於ける客月中口付紙卷煙草賣上は七百九十五萬本にして前月に比し七分を減じ前年當月に比し三割五分を減じたり此現象は販賣業者の努力と否とに基因し各製品の賣行きは總額の四割二分を占むる菊水を筆頭に朝日、月、初日の順位なり兩切紙卷煙草は一千四十一萬本の賣上げにて前月と大差なく賣行順位はヘルメット、百園、ウエルス、コスモスの順なりとす刻煙草は七十五貫匁の賣上にして前年當月に比し十七割を減じたるがこは一般市場不況の爲めと一部分は紙卷煙草愛喫家に轉移せると一部分は紙卷煙草愛喫家增加に原因あるものゝ如し賣上總價格は三萬八千圓にして前月と相伯仲せり而して荒刻は一千二百貫の賣行きにて前月に比し三割三分增加せり

◎血清所管換
釜山岩南に在る牛疫血清製造所は從來牛疫の血清のみを製造し居れるが大正六年度よりは炭疽及び狂水病等の豫防液並に痘苗を製造することゝし同時に農商務省所管より朝鮮總督府に所管換を爲す筈にて既に同年度の總督府豫算中には之れが費目を計上し居れりと(釜山)

◎醫師合格證書授與
朝鮮醫術開業試驗合格證書授與式は十日午後總督府醫院構內醫學專門學校に於て擧行すべし

◎隈部警務部長檢閱
隈部京畿道警務部長は管內檢閱の爲め松尾特務曹長、津村曹長外巡查四名を隨へ十日朝出發向ふ九日間の豫定にて管內松波鎭、廣州、酒幕里、晃地岩、陽智、白岩、香林、魚肥洞、龍仁、邑三、下馬山、板橋に出張すべし

◎研究員出發期
釜山商業會議所役員會にて決定せし浦鹽貿易研究及び仲介の爲め派遣さるべき中村克巳氏は來る十三四日頃出發の筈(釜山)

智多より (第十六信) 琴花
○二十四日午前九時半滿洲里驛に至るにプラットホームに出ると旅は悉く鎭して待合室に入は溢れぬ、列車已に各驛滿員にて切符を賣らざれば驛に集まれる乘客の徒らに喧囂するなり、護車は午後零時半なるに一週三回の急行列車を除きては每日此の郵便列車一回あるのみなれば第二國民兵の召集されて、輸送中なる列車はさなきだに不足を告げて斯の如くなり。

○我等はイルクック迄の乘車券を持ちたれば他の口より出で列車に入らんとするに各車皆乘客を入れしまゝ外より錠の卸されて乘らん由も無し百方策を運らせし末、露西亞驛にたる加藤君の智惠にて一車掌の首を縦に背かしめ漸やく二等車の二階一座を都合せしめ得ぬ、斯くて乘客一同車內に監禁すること無慮三時間、稅關吏の檢査いとも嚴にしてポッケットに及び、旅行券に憲兵隊長のスタンプ受けて零時半發車す。

○國境を越ゆれて露領に入れば鐵道線路の警備はかはらねど車掌子は皆擧銃の武裝を解けり、不逞の馬賊は滿洲里以東のものと見ゆ沿線の地形もまたいたく變りて平原ならず丘陵間皐漸やく波狀を爲して蜿蜒たるを見る唯荒れに荒れたる不毛の野たるは相同じ。

○夕刻より雪降る、室內はスチームを通はせたれば上衣を脫がんばかり蒸せども車外は零下十度にも下りぬらむ、寒きのもとより活動に不便なれど蒸し暖きも惡しく就中肉の香の臭くて堪へ難きは格別に苦し、露人の旅行の常として大なる琺瑯鍋に炙肉豕肉其他種々の食物を堆く盛りて携ふればなり。

○さあれ昨日迄は三階の板席に臥しての背骨の折れんばかり、梯子無ければ大餘の高座に昇降せむは宛かも猿の梢を傳ふが如く、工夫の電柱を攀るに似て、對側の棚上を一瞥すれば生々しき牛の大腿に蠅の群がるあり下の一席には鞋粗人の己が座前に絲を張りタオルを掛けて人目を遮り端坐、瞻りに餘念なきあるも三階の赤手は頭の間へ坐し難ければ徒らに臥轉して猥雜たる下界を眺め良しと見るばかりなりしが今日は級一等を進めて辛うじて乘車し得たるなれば少々窮宛ならぬ肉の香位に苦情は云ふこととならじとあり。(此稿未完)

人事消息
▲白上貞一氏(白上商店主) 九日朝內地へ
▲京城蒔花米國領事 九日朝臨京
▲富家正義氏(開城專賣局長) 九日夜入京原金へ
▲武村茂氏(大倉組社員) 滯京中の處九日夜退京
▲木原小平氏(松田銀行支配人) 滯京中の處十日朝退京
▲奧鹽毅氏(大藏省技師) 八日夜入京京城ホテルへ
▲中村辰五郎氏(鎭南浦貨券家) 八日夜夫人同伴東上

南言北語
支那の外交總長もやつと伍廷芳に決まるらしい ▲處が伍廷芳は先づ北京政界の紛爭が止らねば職には就かぬ ▲外交は國力と伴ふものだから議會が拙者に餘り望を囑して居れば議會を通過しても拙者はお受け申さぬ ▲頗るむつかしい條件を提出して居る却々利口なやり口できあやれと云へばやつても好いが失策したつて彼れ之れ云ふなと云ふ謎らしい ▲其れは先づ好いとして北京政界の紛爭が北つたらやるは體裁の好い拒絕だ ▲物事に付けて角突き合せの絕れぬ北京政界の紛爭が何時止るのか此奴は鳥渡疑問だ ▲決定したつて矢張り唐紹儀の二の舞になりはしないかね ▲徐世昌も內閣引受條件には大分利口な事を云つて居るから此奴もオイソレとは決るまい ▲兎に角北京政界はまだ〱一と揉め揉めねば濟まぬ雨降つて地が固まるならば早く大雨を降らした方が好いかも知れぬ ▲支那と云へば支那人の觀察には餘程妙な處がある ▲北京で發行する每日新報を見ると斯う云ふ大觀察が載つて居る ▲獨逸や米國の兵士の勇敢なのは婦人が兵士を優遇するからである ▲獨逸軍隊の通過する處には必ず多數の婦人が盛に送迎し有ゆる歡待に意を用ゆる ▲米國でも墨西哥遠征軍に對して婦人は其の知ると否とを問はず盛に握手をする ▲兩國とも尙武の風が發達せる理由なきに非ず云々と振つた結論をして居る ▲成る程支那に能く現はれるお轉婆連中は彼れは國民に勇敢の風を發達させる爲であらう ▲丁度好いお轉婆が多い日本にも大分手に了ぬお轉婆が多いから支那へドシ〱送り出すと好い ▲なゐにそれも日支親善の一とつだらうよ

林一象、井上洪婆、村田九分の三子を送る
○飛ぶ雲に契る紅葉の時雨哉 鳥兎
○情盡きず野菊送りて別れ鳧 崖城
○振返り幷州の秋忘るなよ 大痴
○南へ南へ雁の列日頃 鳥堂
○大空に立つ雁列を亂れづに 皐天
○さとめく日を今日の紅葉 黄丘
○稔る田や仰げ高く雁の飛ぶ 雄川
○諸法實相と云へと行く秋かなしや 魚骨
○枸杞の實の赤らむ頭を入去れり 靜軒
○連る〻雁海を渡りて旭哉 虎耳
○沿道の山粧ふ君等送る 目池
○惜別 朝門出ようべの時雨の雲低う 一象
○留別 時雨して幷州の山隱れけり 九分
鷺子鳴く賤ケ伏家の冬籠り 同

物品購買公告
一、荷車 五拾枚
一、馬車覆 參拾枚
此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上トス
入札者ハ京城府內ニ於テ國稅地方費府稅學校組合費年額二拾圓以上ヲ納ムル者ニシテ一年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル
右大正五年六月六日京城府條例第二號ニ依リ入札ニ附ス希望ノ者ハ本府會計係ニ就キ品質、構造、見本等熟覽ノ上十一月十四日午後二時限リ同會計係ニ入札スヘシ即時開札ス
此契約ハ朝鮮總督府尹金谷充擔任ス
大正五年十一月八日 京城府

京日案內
普通 一回前金三十錢 一番外六十錢 ▲申込後中途掲載中止の節は料金返戾せず
呼登上等電話至急入用(姓名在社) 680
書面又は來談 ▲電話買受たし 永樂町二の八二 三浦 675
▲立川文庫が拾五錢均一 本町 ウツボヤ(但本券切拔持參) 591
◎貸家 ○有望なる總督府新築場たる景福宮城壁西側日本建二階家貳棟に付千二百圓で至急賣家又は貸家 秀島 677
防寒沓下製織器械 附屬共安價讓度し
◎古本熱心高價買入 ◎是非御試賣を乞ふ ▲御報參上 蓬萊町三ノ三六 星野 678
▲本町四 ▲書肆群書堂 電話二七八一番 641
古本なら野村 明治町筋電二六三六 買入誠實御報參上 野村書店 636
◎貸家 溫突付日本建 官吏別莊的 三坂通練兵場上 五圓半 管理人龍山印刷局先 畑中 606
藏男入用 身體強壯勞働に耐へ得るもの本人來談 龍山元町一丁目 畠山酒造場(電話一五四番) 664
番外 家庭に工業家に事務家に必携 新案特許 電燈昇降自在器 價五拾錢 京城黃金町 電話一四二五 特約店募集 電氣機械器具各種電球卸商 巴商行 674
橋流 筑前琵琶教授 出張教授應ず 京城壽町一ノ三 江頭旭米 679
圍碁指南 出張教授應需 本町一丁目 黑川精肉店角入る 電話取次二四六三番 林秀石 676
▲見習生入用 年齡十四歲より十八歲迄學力小學卒業程度外に(アチラ)語を話し得る者を至急入用希望者は急ぎ來談あれ但し日給金二圓を給す 京城三坂通 下川堂寫眞館 672
◎京城春川間 乘合自動車 每日午前八時出發 賃金片道四圓 京城南大門通一丁目 廣橋自働車 電話二一九番 主務 金正淵 630
明治町 ほねつぎ(うちみくじき)等 一切の治療御依賴に應ず 柔術道場 584
鑛山經營 重石買入 金石商會 京城鍾路二の九九 電話一八九九番 ▲鑛物分析並に鑛山測量製圖▼ 604
株 成金愈々續出す 大阪野村德七代理店 京城本町二丁目 電話(長)九九三番 田中友吉商店 638
恩給年金 低利 短期無保險並に勸業貯蓄債券買入 立替 即時現金 京城永樂町二丁目(金光教北手) 國江商會 643
鑛物定量分析 京城府太平通(朝鮮公論社左小路) 電話一三四四番 坂元分析所 655

正月用小袖 儀式用衣裳 紋付羽織用 裾模樣種々
地方の御客樣の御便利を計り外賣係りが出張仕候に付其節宜敷く御引立の程奉願上候
京都 まつや出張店 京城旭町一丁目一番地

移轉御披露
今般業務擴張の爲左記の處へ移轉仕候間倍舊の御引立奉願上候
京城本町二丁目 時計眼鏡貴金屬附屬品一式 川合時計店 電話二九一八番

新刊書御案內

書名	著者	定價
一喝	禪南天棒	九〇
宗演禪話	圓覺寺管長釋宗演	九〇
禪宗閑話	建長寺管長菅原時保	九〇
大戰外交史	長岡春一	一、五〇
立志訓	村上專精	一、四〇
珠算自由自在	石井研堂	四〇
應用自在簡易電氣玩具製作法	宇野長次	五〇
代數學研究と受驗新法	松田文太郎	八五
新式日用辭典	研文社編	六五
德川初期の海外貿易業	川島元治郎	一、三〇
[illegible]	村井物衆	一、三〇
人心解剖彼等の本音	楓本秋村譯	七〇
現代の歷史を造る人々	鵜崎鷺城	九〇
大正の青年と帝國の前途	德富猪一郎	八〇
北濱と兜町	島本得一	一、四〇
式辭演說一千題	國民中學會	七五
同 上製	同	一、〇〇
有用鑛物の產地及用途	吉村鐵治外一	一、五〇
先生樣と生徒	おへその前迄の著者	四〇
植民原論	永井柳太郎	六〇

大阪屋號書店 京城本町 電話六四八 振替二〇八六 京城二五七三

專門 化學應用 印半天 洋服丸染 京城魚市場隣(電話二八五七番) 若宮染工場

右本月四日解雇致候間爾後當店と何等關係無之候間此段廣告候也 山田俊夫

◉是れ千載一遇の光榮

畏くも御渡鮮の當時を御追懷遊ばさる

李完用伯談

余等が東上の使命は朝鮮貴族を代表して前の寺内總督に對し其在任中の功勞を謝せんためにて李宮補子及び李王家を代表したる閔長官等と共に東上したる次第なり寺内首相には閔長官と日を別にして會見を求めたるに首相も我等が懇衷を容れられ等町の自邸にて引見されたるが余は貴族一同を代表して親しく謝辭を述べたる上

◆記念品を贈呈したるに大に感謝に堪へざる旨の答辭あり夫れより數日を經て新舊總督其他舊知の人々十數名と共に晩餐會に列したり今回予等一行の東上が期せずして立太子式觀艦式等の如き盛事を擧げさせらるゝ際に行き合したることは最も光榮とする所なり就中　聖上陛下には親しく拜謁を賜はり更に出發の前日即ち六日には御陪食さへ仰付らるゝと云ふ恩命に接したり賜餐の當日は　聖上陛下を始め奉り東伏見宮依仁親王、閑院宮載仁親王の兩殿下及び李堈公殿下、寺内首相、宮内大臣、侍從武官長、總秩寮總裁、李完用伯、閔内爽子等にして席次は

◆陛下の御右には閑院宮殿下御左には東伏見宮殿下其に閑院宮殿下の御右には李堈公殿下各御著席あり　陛下の御前には波多野宮相其左右には侍從武官長總秩寮總裁等著席し予及び閔内爽子は　陛下と御筋向の席即ち侍從武官長及び總秩寮總裁等の左右に席を賜はりたり此の時予は畏くも親しく御前に咫尺して龍顔を仰ぎ奉れば　陛下には殊の外御機嫌麗はしく予は光榮の餘り

◆感極つて云ふ處を知らざりき　陛下には嚢に皇太子殿下に在せし頃御渡鮮遊ばされし當時を御追想あらせられてか侍從武官長を經て朝鮮のことにつき畏き御下問を賜りたるは誠に予一人の光榮身に餘るのみならず吾朝鮮に取り無上の光榮とする所なり當日御宴の席上に於て賜りたる　陛下御用の葉卷煙草は喫用するも餘りに畏多しと存じ歸鮮に際し斯く持歸り知己友人家族の者に對しても恩賜の難有さを傳ふる考へなりと白銀の煙草入にいとも叮嚀に收めある見事なる

◆葉卷一本を示す觀艦式の際も亦軍艦伊吹に同乘を許され　陛下の御召艦の次に進み艦上に立たせ給ふ大元帥陛下の御雄姿は申すも畏し海神も姿を消さん許りなる軍艦の一齊投錨天地も爲に崩れんとぞ思ふ祝砲の發射など軍國海軍の軒昂たる威風堂々の行動にはたゞく感嘆の外に言葉もなし若し又立太子式の莊嚴なる御盛儀に至つては皇國の榮ゆる徴ぞとも拜せられて畏しとも畏しと語り終つて伯爵の双眼には感涙の滂沱たるものあり

□芽出度く使命を果しつ

首相朝鮮開發に盡力せん事を誓ふ

閔李王職長官談

寺内前總督が朝鮮を去られたるに對し吾が李王家に於かせられては不肖を使して感謝の意を表せしむること〻なり今回東上したる次第なり東京にては寺内首相も吾等今回の使命に對し頗る感謝の意を以て迎へられ内閣組織匆々多忙なる時間を割き一日自邸に於て親しく面會するの機會を與へられたり予は『閣下が

◆多年朝鮮統治の爲めに盡されたる勞は吾等朝鮮人の最も感謝する處にして就中李王家に對して致されたる諸般の施設に對しては一層多とするものなり今閣下が大命を拜せられて朝鮮を去らるゝと雖も尚ほ將來不變の顧慮を望む事切なり』と謝辭を述べ携行の記念品を贈呈したるに首相は『遠路態々の來訪を謝し何卒歸鮮の上は李王家に對しても此の旨傳達あらんことを申出でられ更に將來は

◆申す迄も無く朝鮮開發のために盡さんことを誓ふ』旨の挨拶あり約三十分間にて會見を終りたるが辭去するに際して追て日を期し東し數日の後再び首相の自邸に於て新任長谷川總督に引合すべき旨を約一夕の晩餐會を催され首相總督を始め宇佐美、大藤副官、兒玉内閣書記官長、大屋兩長官、李完用伯、李容植、池邊秘書官及び予と圖らずも水入らずの

◆樂しき宴を開き席上主客交々歡談を交へたるが愉快にして且つ有益なる會合なりき是にて予等の使命は果てたるが殊に今回の出眼中に於て　聖上陛下に拜謁仰せ付けられたるのみか六日には御陪食を賜へ即り又は立太子式に參列し更に觀艦式當日は伊吹艦に便乘して御召艦の次に從ひ勇壯なる觀艦式を拜觀し得たるは身に餘る光榮と感謝し居れる次第なり

朝鮮鐵道沿線狩獵案内（一）

▼龜浦方面　龜浦驛より洛東江に沿ひ下流一里に鳥人島あり、四方渡船場を横ぎり、一里半に七大島、狩洛面、下東面大上面あり、其の他金海一帶の地は水禽の獵場として名高し、東方又雉、兎、鴨の獵もあり、陝峨の山道を辿り、古城址の山城に至れば雉、鳩多し、勿禁驛より線路伴ひに、倉山洞を過ぎ梁山川（梁川とも云ふ）に至れば洛東江の合する邊より上流竹山邊までの兩岸は雁、鴨群集す、此邊は平坦なる原野なれば兒辰若は晩景を可とす、此の行程約一里、又驛前より密陽に捕ること二里梁山邑より通度寺街道に至れば雉多し、尚通度寺附近に野猪の農作物を害すること勘からずと。

▼進永方面　驛前の廣漠たる大水田は設備の大陸的なるなしても小島に冠たる村非獵場にして、附近の水田沼澤と合して五里四方、南東洛東江に接する一帶は雉、白鳥、鴨、雁群を成し、夜陰の喧叫附近人家の夢を驚かす甚し。

▼慶山方面　慈仁街道は東にあり、沿道二里の間は雉多く、東北一里琴湖江畔は雁、鴨の群集地なり、東南方、峽谷に向つて進むこと三里清道慶山間の山中には野猪、鹿類の獲物多し。

▼金泉方面　金泉市場より甘川に沿ひ、約二里東北方に進み開寧郡に入る、此の邊一帶の水田沼地に雁、鴨群集し更らに二里の道を雁に尋ねて歩を運べば鴨、雁の根據に突擊するを得べし。

▼黃澗方面　秋風嶺驛よりだらだらの山道を雉子を追ひつゝ行くこと二里半、黃澗驛に至る山野は有數の好獵地なり、黃澗邑内は停車場の東約半里にあり、又停車場の西南三里の山村は野猪鹿類の產地なり

▼江景方面　錦江の上下五六里は雁獵の本場なり、十一月より翌年三月頃まで朝夕此の河に群集する保護鳥鵠及び雁、鴨類の大群水面を掩ふて浮游す、其夥しきこと筆舌の外なり、陸獵は日中にて水禽類以外野は禽獵獸の名に背かず、黃登驛の蘆葦なども加はりて、所謂江景平野よりて了度にして一大貯水池あり、冬季に至れば池中に黑白の洲を現す、黑きは雁、鴨の群れにして白きは白鳥、鵠の群れなり。

▼金堤方面　東津江と萬頃江に挾まれし金堤平野は、江景平野と竝び稱せらるゝ水禽類の寶庫なり、されば近年横濱、神戸邊外人の出獵地として名高し、又夜網を引きて一時に數十羽を獲る獵法、此の邊の鮮人間に流行すれ共、餘りに勞勳なくして遊獵としては樂み薄し、井邑驛の東北約一里新六里に貯水池ありて雁鴨來集す、獵期は十一月末頃より良し、初獵期の頃は三里を隔る古阜、興德方面を適當とす、全南の名山內藏山は驛に近く、又扶安郡邊山山脈は南に若干離るれ共、共に猛虎の棲息するを以て名高し、邊山の猛虎狩は茁浦附近より狩立つるを良策とす

▼長城方面　驛の西南三十丁にして黃龍江に達す、附近は水田に富み雁、鴨の獵地として數へらる、黃龍江の水源地、蘆嶺山脈は猛虎棲息し湖南第一の恐ろしき獵地とす。

▼三郷方面　驛の南半里務項浦（通稱日防浦）の干潟は雁、鴨、鵠の群集地なり。

▼烏致院方面　烏致院驛より東に一里弱、尾湖川畔は十月初旬より十一月末にかけ、水禽多く集まる邇行一里、鳥山に至り更らに進めば二里にして獵場、又二里行けば九政灘、行先として可ならざるはなし。

▼天安方面　成歡より西方二里の屯浦に雁、鴨あり、天安驛の北一里牛欄山附近及び八里の鎭川には雉多し、東三里の木川、鎭川、南二里鐵道線路近傍は雁、鴨獵に良し、溫陽の溫泉に疲れを癒し更に新鋭の意氣を以て山野を跋渉せば如何ならん。

▼平澤方面　成歡と平澤の間、安城川橋梁より牙山灣に至る安城川の流域、並に附近の水田沼澤は水禽の獵場として夙に名有り、又東一里の素沙洞より安城に至る三里の沿路東北二里、陽城附近、西一里、平澤邑内は山野荒蕪地に兎、雉、鵠あり川沿ひの地には雁、鴨夥しく群がる

▼烏山方面　驛附近里餘を出でざる山野には雉多し、南二十町振威川は雁、鴨獵の中心地にして振威邑及び烏山川附近の雁獵は初獵期を可とし、鴨獵は陽春の頃を良とす、隣驛西井里附近も亦好獵場に富めり。

▼水原方面　驛の西北十五丁西湖には水禽あり、西二里の漁汀浦、東北一里半の光敎山、西南一里半の華山、東二里の龍仁には雉、鳩多し又七里を隔てゝ陽智の地に出張せば獸に委す獲物あらん、隣驛軍浦場餅店共に雉獵に適し水禽亦尠からず。

●國士、相續て凋落す

悼む可き蔡鍔の訃

寺尾法學博士談

如何に凋落の秋とはいへ曩に黃興氏の死を聞き今又蔡鍔逝くの報を傳へらる投威惋無量ならざるを得んや蔡鍔は三十五年前

▲湖南の貧家に生れ生後直ちに父を失ひ母の手に養育せられ十四歲にして秀才の學位を受け明治二十七八年戰役後梁啓超の事務學堂に入り更に徐華甫の偏陽醫學に入學して英語と政治經濟とを學び後日本に來り明治三十七年我陸軍士官學校を優良の成績を以て卒業し湖南省勉學堂及び武備學堂に教鞭を執り衛來江西廣西に轉任して日本式の

▲新軍を創設し軍隊の刷新に全力を傾倒し夙に革命の大志を抱き第一次革命起るや武昌に據り湖南の官僚を勸滅し第二革命の際には表面巧に忠實を裝ほひ南北調和に努め袁の帝政運動起るや彼は斷然意を決し一夜北京を脫走して日本に來り別府箱根等に潛伏し機を見て決然雲南に入り迅雷の勢を以て雲貴兩省に動員を命じ

▲討袁の旗を揚げたるは昨年十二月なり茲に於て彼は雲貴の精銳を率ゐて四川に入り連りに北軍を敗り一躍長江を横斷して北進せんとする秋袁氏逝きて南北の妥協を見たるなり彼は沈毅寡言にして輕擧を愼み豪膽にして人格高潔漸進主義の革命論者なりき又德望高く常識の發達せる學容易に得難き良將なりき

◉山中で大格鬪

賊も巡査も負傷

黃海道黃州郡沈村駐在所稻垣巡査は去五日夜の八時頃同地停車場にて妻子を引連れ移轉荷物を携へて乘車せんとせる四十前後の怪しき鮮人が豫て注目中の犯人に酷似せるより駐在所に同行したるも同駐在所は昨年新設にて未だ留置場の設備なく止むを得ず午後十一時捕繩を施し本署に引致する事となり同地を距る一里北方の松山坂に差懸りし時此怪しの鮮人は頭部を稻垣巡査の面部に强か打當てし爲め巡査は一時昏倒せしが稻垣巡査は苦痛を堪へて追跡きしに兇漢は猛然として捕繩を絕ちて抵抗し此處に大格鬪を演ずるに至りしが鮮人は屈强の大兵漢とて稻垣巡査は殆ど組伏せられし時早くも稻垣氏の救を呼ぶ聲を之れも約二十分後れて本署に到らんとせし尤巡査補が聞きて馳せ付け協力して漸く該漢を捕へ嚴重に縛して六日午前二時本署に到着するを得たるが此の爭鬪にて稻垣巡査も負傷し怪漢も頭部に治療三週間を要する負傷をなしたりと（平壤）

◉合併相撲休場

京阪合併大相撲九日目は雨天の爲め休場せり（大阪特電）

◉鯨九頭を捕ふ

東洋捕鯨會社にては十月二十七日より本月四日迄の間に咸南新浦附近の沿海にて合計九頭の鯨獲ありたりと

◉京都文展開期

京都に於ける文展は二十七日開會の豫定なり（大阪特電）

陸軍特別大演習前記

▽豫後備將校の御前講演

岡村大佐感涙に咽びつゝ語る

金谷特派員發電

九日午後五時五十分福岡にて

大演習御野立所に於ては特に　陛下の思召に依り後備役步兵中尉帷中幸助及び豫備役步兵大佐岡村勝三郞の兩氏に御前講演を命ぜらる、由來御前講演は統監部員中にて選定せられたる事あるも未だ曾て在鄕軍人にして此の光榮に浴せる者なしと道は偏に今後の兵備が在鄕軍人に俟つ事多きを思召されたる大御心と拜察せらる余（特派員）は地行町に岡村大佐を訪ひたるに氏は襟を正して曰く『身に餘る光榮譬へんやうもなし昨年は奈良聯隊にある子息御前試合の光榮に浴せるに今又此の事あり一家の譽之れに過ぐるものなし』と感涙に咽びたり

◉秘苑觀覽許可

京城昌德宮秘苑は虎列拉蔓延當時は一時一般の觀覽を謝絕しゐたりしが本月八日より平時に復して觀覽を許すこととなれりと

◉秋季玉突競技會

黃金町一丁目京城館に於て九日より三日間玉突競技會を開催會費金壹圓二十五錢均一賞品は本賞一等より五等迄外特別賞あり由に會場に陳列しあり

◉篠田旅順高等女學校長

篠田治策氏は九日朝入京し午前中女學校を參觀し午後中學校、昌德宮、美術品製作所等參觀したり尙ほ兩三日滯在の豫定なりと

◉西本願寺報恩講

若草町西本願寺にて十日より十六日まで午前八時、午後一時、同七時より宗祖見眞大師の恩を思ひ上げ報恩講法要並に說敎及び法話ある由

◉金光敎龍山敎會大祭

龍山元町二丁目金光敎會にては九日午後八時より宵祭、十日午後一時より大祭を執行すべしと

▲川柳の槍錆

むらく改め橋本川柳が師匠の橘之助と不和を生じて東京を飛び出した事は曩きに記した通りだがそのために旅から旅へと漂泊ひ歩るき今度京城へ來る事になつたのだが『僕は姫路から西へ足を踏み出しましたのは初めてですが見ると聞くとは大違ひ御當地も却々いゝところで厶います』と感心してゐる、彼の高座振りは若手の内では東京では屈指なものだが、東京通りの通人に言はせると『どうも少し調子が高過ぎるのがむらくの缺點だ』といふがそれ丈彼には己れの藝は自信があるらしい、話は別だが今度歸京するとしても師匠との間は圓滿に行きさうも無いので歸京の上は久しく中絕してゐる立川瑞玛の名を繼がせようと盡力してゐる者があるさうだ

□川柳の槍錆び　―浪花館出演―

▲大正館○八日よりの替り寫眞は舊劇鬼夜叉丸、冒險活劇天馬空、新派家庭劇母と子にて少女浪花節川吉川うの子の出演あり

▲黃金館○七日よりの替り寫眞は教育悲劇孝女お信、活劇第三黑い箱、探偵劇月岡刑事宅の逆襲等あり

▲有樂館○九日より差替へたる新寫眞は新派悲劇すき焼、冒險活劇死の曲馬、舊劇肥後の駒下駄

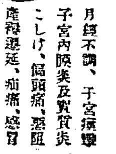
▲壽館○浪花節東洋軒右衞門一行で開演中太夫等に好評を博し居れり

金牌受領　本椿香油
宮妃殿下宮內省御內儀御用光榮を蒙り
髮を黒く長くつやを出しさらくとして髮のわけ毛を防ぎ髮のからかさる事妙也
本舗　大阪　三宅堂
大日本實業博覽會に於て數多き髮油出品の內獨り金牌受領のみ

御婦人はかならずお讀遊ばせ

花柳病外科專門
◉梅毒 ◉淋病 ◉泌尿生殖器病 ◉丸 ◉翠 ◉肛門病 ◉皮膚病 ◉婦人病 ◉神經衰弱 ◉六〇六注射 ◉包皮其他手術 ◉入院隨時 ◉診察無料 毎日
京城長谷川町南大門通農銀裏
司生堂醫院

目ニ見ヘテ　ズングトキク
ジュマズイタマヌ
井上博士ノ　ロート目藥
廿錢　十錢

產前產後子宮病血の道の良藥
登錄商標


清婦湯　婦人要藥
東京日本橋本町　大阪
高木與兵衛
效能　月經不調、子宮病、子宮內膜炎及實質炎、こしけ、偏頭痛、腰痛、難產、產褥熱、ヒステリー（血の道）神經性心悸亢進
說明　月經調はず、こしけ、白血、長血、寸白、子宮病、產前產後、つわり、引風、逆上、頭痛眩暈、息切、動悸强く、下腹手足腰の冷え、むくみ、しびれ、癇高ぶり、氣鬱ぎ、物事氣に掛り、根氣薄く、心身疲れ、だるく其他血の道の病氣一切に効あり
定價　一日分金七錢　三日分金廿錢　七日分金四十五錢

登錄商標

蚊帳製綿
蝸牛印製綿蚊帳發賣元
大阪市東區安土町三丁目
山本佐七商行

漢學講義錄
新興漢學界の最好機◉大特典提供◉目下入會の好機◉速成一ヶ年卒業◉無試驗◉見本付會則無代進呈◉東京神田表神保町
帝國漢學普及會

實用靴　改縫　萬年靴

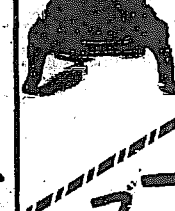
◉頑丈一點張
壽命知らず龜田の萬年靴
▲二重底で其の上に獨逸鋲が打て有り丈夫なる事普通靴の比に非ず
編上靴　一金四圓也
短靴　一金參圓八拾錢
▲御注文の節は白紙を踏みたる足形を畫き又正確なる足袋文數御通知の事
▲營業品目錄寸法用紙御報次第進呈
東京市芝區愛宕下町四丁目一番地
龜田靴店

立太子奉祝記念優待募集
東京芝區櫻川町十一番地
通學生　寄宿生　校外生
簿記募集
私立認可　日本簿記專修學校

日韓書房
新版報告
馬淵冷佑著　內外教訓物語　天地人　各定價一圓六十錢　送料十六錢
巖谷小波著　新伽百話　定價一圓　送料十四錢
鏡花著　由緣文庫　定價一圓三十錢　送料十二錢
遠藤吉三郎著　西洋中毒　定價一圓二十錢　送料十二錢
島田牛稚著　地理教授上の諸問題　定價七十五錢　送料十錢
京城本町二丁目

大日本歌道獎勵會
會員募集
會員には新年勅題無料添削致し其他每月無料添削の規程あり初學者を懇切に誘導す
初學者に通信教授する爲和歌講習錄を發行し諸大家の說明により直に歌人たり得べし卒業僅に一年なり入會好機郵便稅二錢添へて申込めば規則書を進呈す◉東京麴町平河町

今般仁川病院小兒科主任を辭し左記の處に於て開業仕り專ら小兒科產婦人科患者の診療に從事す
仁川新町（元高木病院跡）
小兒科產婦人科　井上醫院
院主　井上藤香
電話一五六番



ブーツなら
京城本町
熊平支店
電話六二二番　振替京城二二四番

理想的通信占の發明
運　運　運
△運なくて何んの己れが男かな
△運なくて何んの己れが美人かな
此占法の發明は山間僻地及海外遠方に在住者の福音なり
△運なくて何んの己れが理想かな
△運なくて何んの己れが努力かな
人間萬事運なり運拙ければ美貌身の仇となり學問却て家を亡す。其運の强弱と運勢活用の時機を知らんと欲せば葉書を以て至急御會あれ
占ひ申込規定書無代進呈す
京城明治町
岡村介石堂

女鳩

渡邊默禪

『一五五』歸京

と、鳩子は腕にせぐり來る涙を抑へるやうな術なげな調子で、

『大野さん、勘忍してください。私し全く濟まないんです。あゝ、貴郎の御同情や御心配をふみつけにするやうで、實に心苦しいんですけれども、や、私し、自分の信念を抂げるといふ事は、どうしても能きないんですの。自分の利害なんか、それは小さな事なんです。私しの信念の方が、それよりももつと／＼大きな、大切な問題なんですものね。ですからどうぞ……。』

低い聲だが腸を絞るやうな心の波動が戰いてゐた。大野は聞くに堪へかねたやうに握りつめた拳でどんと卓子を叩きつけながら、

『信念!? そんな信念が何です。不義を憎み惡を懲らしてこそ信念の力が實現されるんでせう。惡の前に怯へて自分を守ることさへ能きないやうな、そんな蝸牛の殼同樣の無氣力、無自覺のつまらない信念なら、自分で踏みつぶし叩き破つてお了ひなさい。』

と怒號した。その聲に射竦められた鳩子は、ぽらりと涙を落しながら、

『情ないことを被仰るのね。無氣力でも無自覺でもよござんす。私しは私しの信じたまゝを行ますから。』

『勝手になさい。』いきなり椅子から立揚つて『貴孃は口惜しいとは思はんのですか。無念だといふ感じがないんですか。源作の家で内々お話したとほり、今度の負傷事件だつて、確かに彼奴の……。』

と言ひかけるのを鳩子が遮つて、

『いゝえ、それは分つてゐます。分つてゐるだけに私しの苦痛が烈しいんです。私しだつて弱い人間ですもの。それは口惜しいとも思ひます。無念でないとはありません。だけども大野さん、それは感情でせう。感情と理性とは違ひます。理性の上に立つた私しの信念は、まだ感情で殺されはしません。不十分ながらも感情と鬪つてゐられるだけが私しの幸福なんです。』

係う言つて腕を卓子の縁に落したなり、身顫ひしてさめ／＼と泣き頽れた。大野は突立つたまゝ、眤下して強いて荒らだつた呼吸を整へながら

『ぢや、どうします。放任しますか。』

『ね、どうぞ。』鳩子は靜かに擧げた目を拭いて『しばらく私しにお任せなすつて見てゐて下さいまし。惡を制する力は決して警察や監獄に限られた譯ではありません。人の力以上にもつと大きな強い力があります。惡魔は人の力で捕へた網は自由に破られますでせうけども、天の造つた網は破られません。私しはその力に信頼します。はい、必と最後の勝利を得られるだらうと信じます。』

『いゝです。それでは僕は今日限り局外中立です。もう此の事件については何事も言ひません。』

『どうぞ勘忍して下さいッ。』

『仁も度を失へば愚に近し。鼻毛の先に蜻蛉をつなぐとはこんなことかも知れんですなア。や、失敬。』

扉を開ける音も亂暴に、突いと出て去つた。その跡に鳩子は一人居殘つて心ゆくばかり泣き續けた。

生駒はかくして呉羽博士と共に歸京の途についた。鮎山子爵はホテルに泊りながらも幾んど病院へ詰切にして患者の世話を燒いてゐた。子爵と大野との間に格別事件についての話が交換された樣子がないのを見て鳩子は安心してゐた。父はお花と二人の看護婦とによつて手厚く看護された。そのうちに大井澤から源作が出て來て、熊の膽が二百餘圓に賣れたことや、皮が乾いたら直ぐ送るやうに手配をして來たことなどを話した。

大河野子爵は日に／＼良好の經過を持續けた。一週間目にはもう普通の食量をとつて、運動ができるやうになつた。只茫とした瞳の沈著がなく、擧動が變で、そして辻褄の合はぬことを言つては笑つたり怒つたりする。博士の豫言は適中して、悲しむべき瘋癲病者になつた。

もう此分ならば退院しても、と院長の保證を幸ひに一同山形を引揚げて歸京することゝなつた。源作はこの機會に東京を見物したいと申出たので、お花と一緒に同行することにした。お花だけはいつまでも傍を離したくないのが鳩子の切なる望だつた。

西洋料理、すき燒、ハイカラ丼　おいしい御料理一品も御調進　南大門通　電話二五七一番　カフエータイガー

大阪より

○海運界の活況は補助機關附帆船の流行を見んとす。南洋貿易位には寧ろ經濟的にて便利なるべし、和歌山の南稱太郎氏大型帆船を新造しマーシャル王の稱ある松本正純氏二三百噸型帆船に限ると稱す、其南進歌に『山田長政臍知斗、錢屋五兵知如泉南進山來男子事』『一帆蹴浪向天邊』

○文展山室翠雲の『天空海濶』を非賣品と知りつゝ買上げんと運動せるもありしが今又橋本關雪の『寒山拾得』を買はんとするものあり、これ又神戸鈴木氏の依囑なれば到底他の手に入るべくもなし然かも非賣品程欲しきが人情。

○其橋本關雪氏京都應衝吉雷に院派の大親睦會等と一夕歡を共にす、院派の人々京都文展派の平凡を暗に痛罵し皮肉る、關雪氏默する能はず曰く『天心靈祉の末社で谷中の神樣が追々ふわるから有難い』と痛快なり。

○京都にて有名なる澤文旅館は東京神田小川町二野原德吉氏と協約整ひ賣却せんとす主人老ひて三子皆業を異にせるに因ると、新經營者野原氏は東京精養軒其他海外にもホテル業を研究せる人今後の澤文は面目を一新せん。

○活動寫眞界目下の流行は恐怖なり低級趣味の大供子供の好奇心を唆るには赤本的の荒誕無稽な變化術の自由を見する事甚だ妙策なれど、小學時代の少年の感化には頗る寒心すべきものあり、活動のフイルム取締は至極中肯の職物。

○大阪府警察部は藝術座のアンナカレニナを風俗紊亂の理由で禁止す、風紀刷新に努力せる點は可なるも理解なき努力は往々的を外づる、公園や學校の附近に遊廓を許可する府にして此事あり、矛盾。

○其『アンナカレニナ』の須磨子のアンナは悉く須磨型に翻りて動かず、競馬場よりアンナの宅までは稍々可なるもヴヱニスと大詰は須磨子唄が鼻につきていよ／＼たまらず、澤田のカレニナ沈痛にて好く中井のウロンスキーは男らしき處が缺げ勝見のステヴナもチヨビ過ぎたり孔雀のキテーは温雅にて可憐。

○文樂座の十一月久々の南部出勤にて前『加賀見山』古靭の『又助內』伊達の『長局』中『合邦』が越路の出しもの南部は『白石噺揚屋』切がお半長右衞門『帶屋』が津『六角堂』の源締何れも適り役にて殊に御大の合邦は古臭けれど得意のものなり津の『帶屋』も好デン家の期待を滿たして申分なし。（支局にて）

回立太子禮奉祝俳句會（俳諧散心第十四回）

小皷や白菊に灯搖れたり晃　田打夫
菊の雨に燭把つて踏む廊下哉　同
政務忙しき官邸の旗や菊日和　木雨
白衣干す谿間に國旗秋晴るゝ　同
山茶疎々溪谷に鳥の移り鳴く　嶽亭
懸崖やたはゝ咲く菊に溪の風　同
花瓣に陽しみ／＼と菊晴るゝ　浩一郎
凄しく水こぼしけり秋の霜　同
温泉のいき菊香や窓の瀞氣哉　靑丘
秋晴や祝旗高々と丘の塾　同
桟橋を今出る艀菊を置く　雨芒
切張の目立てる家や秋の霜　同
白菊やそくばくの茶殼干せる縁　夢骨
髭剃つて輕き嘘や菊日和　同
稻村や足る日の旗に醉へる農夫　耕伯
醉眼を菊大輪に落しけり　同

△久子君は『木雨』桂泉君は『夢骨』盛中子君は『耕伯』と各改名せり

商況　下關期米特電　▲後場の手振　▲今能く買ふ

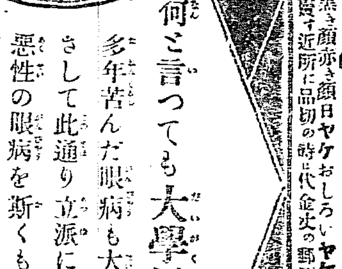
偉大なる効果を以て
①目に見えぬ皮膚の排泄物を除り
②自然に肌を爽やかに色艶を増す
レートチェリー
▲白粉下に召せば　肌の營養を旺んにし荒れず汚れず常に若々しい色艶を保つ
▲不斷に召せば　白粉の附り伸を良し濃淡自由に此上なく化粧の品位を高る
宮内省御用　皇后宮職御用　各宮家御用品
花の香りよりもよい匂ひ
東京　平尾賛平

消化と毒けし　仁丹

▼旅行ふ仁丹　イツモ愉快
金言　人を知り己れを知りてこそ業に強し（楠公家訓）

朝鮮人蔘應用滋養菓子　ホーカース井ート
堀越商店の製菓試驗部にて滋養強壯劑兵正朝鮮人蔘其他數種を應用精製したる最新の滋養菓子ホーカース井ートを試みよ到る處に販賣す
東京和泉橋　堀越嘉太郎商店（振替東京一五六）

大學目藥

商標　登録
何と言つても大學目藥だ
多年苦んだ眼病も大學目藥をさして此通り立派に全快した。
惡性の眼病を斯くも手輕に治した大學の効驗は實際驚くの外はない。
各地藥店にあり　大阪　參天堂藥房


七日ツケタラ鏡をどうる色白くなるゲンソ液　小壜二十錢　徳用四十錢
今東京で大評判の白美の元素色黑き顏赤き顏日ヤケおしろいヤケ、アレを防ギキメをコマカに根本的色白く眞の美人美男子となる
全國の藥店小間物化粧品店に販賣す近所に品切の時は代金丈の郵便切手を送れば送品す
東京和泉橋際ゲンソ液本舗　松本藥店

東京特賣三品
ボックス革製編上靴　第壹號 金貳圓五拾錢　第貳號 金參圓五拾錢　第參號 金四圓五拾錢
ボックス革製短靴　第壹號 金貳圓五拾錢　第貳號 金參圓五拾錢　第參號 金四圓五拾錢
ボックス革製深ゴム靴　第壹號 金貳圓九拾錢　第貳號 金參圓九拾錢　第參號 金五圓五拾錢
ボックス革製長靴　本長靴 金五圓五拾錢　半長靴 金四圓八拾錢
上圖の品一種は精選せる材料と熟練なる技術とを以て最も入念に製造せし品なれば一般實用紳士靴として好適なり
御注文の節はハガキにて靴型と足袋の文數御通知あれば代金引換小包（送料實費）にて差出す
東京市芝區愛宕下町　三金高等靴店　電話芝六九〇番　振替東京一七一二三番　高價目錄無代進呈

金泉醴泉間自動車發著時間
上り　一番　二番　金泉發 前八、三〇　龍宮發 九、三五　成昌發 一〇、一〇　醴泉著 一一、三〇　尙州發 後一、五〇
下り　一番　二番　金泉著　尙州發　成昌發　龍宮發　醴泉著 [illegible]

金泉織居自動車支部　金泉電話四八番　▲小荷物運搬仕り候

大邱浦項間自動車發著時間
上り　一番　二番　浦項發 前六、三〇 後一、〇〇　安康發　慶州發　阿火發　永川發　河陽發　大邱著 [illegible]
下り　一番　二番　大邱發　河陽同　永川同　阿火同　慶州同　安康同　浦項著 [illegible]
浦項電話七番　大塚農場自動車部　大邱出張所　電話二一七番

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神阪行
○大有丸　十一月十九日後四時出帆
○君か代丸　十一月十一日後四時出帆
○神代丸　十一月十一日後四時出帆
仁川海岸通一丁目　電話五十九番　高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行（關東都督府命令航路）
第十六共同丸　十一月十二日入港　十一月十四日正午出帆
朝鮮鐵道京釜驛にて荷客連絡輸送取扱仕候　大連にては青島行定期船接續荷客共通取扱仕候
阿波共同汽船株式會社　本町四丁目（電話一七三番）
仁川代理店　野口商會
元山代理店　春日町（電話二四四七番）田口回漕部
京城取次店　南大門（電話二六八・二〇一七）河村運送店

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行
○立神丸　十月　日後五時出帆
○小倉丸　十月　日發五時出帆
元山、清津、浦鹽行
○立神丸　十一月　日後十時出帆
○小倉丸　十一月　日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
○第三寒平丸　十月　日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
○第三寒平丸　十月廿八日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天眞丸　毎月二日九日十四日廿一日廿六日　午後十時出帆
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

大阪商船仁川出帆
（外航路所屬航路寄港航路を除く）
○群山、木浦、釜山、關門、神阪行
○安東丸　十一月十日
×東州丸　十一月廿日　後五時出
×天智丸　十一月十六日
○信濃川丸　十一月九日
×木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行
×信濃川丸　十一月廿五日　正午出帆
○群山、釜山、横濱行
△福州丸　十一月廿八日　後二時出
△潮州丸　十一月十八日
○木浦、神戸、大阪行
×蒙州丸　十一月　日　正午出帆
○群山、神戸、大阪行
×須磨丸　十一月十五日　後四時出
○鎭南浦、大連行
×信濃川丸　十一月廿日　後二時出
○信濃川丸　十一月八日
○大連直行
×福州丸　十二月八日
○鎭南浦行
○潮州丸　十一月廿二日　正午出帆
△清津、浦潮行（元山出帆）
○八城津西湖津寄港浦潮不寄港
△印度丸　十一月十五日
○安平丸　十一月十五日
▲宮島丸　十一月廿一日　後二時出
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
○基隆丸　十一月廿九日　後四時出
湖北丸　十一月十三日　前六時出
御注意　朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道連絡の船車切符發賣仕候
京城切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二〇〇番・二〇五番
切符發賣所　内國通運會社京城支店　電話七〇八番

日本郵船仁川出帆
○大連、芝罘、牛莊行
○相模丸　十一月九日　未明出帆
○高砂丸　十一月廿日　未明出帆
○三河丸　十二月一日　未明出帆
仁川海岸通一丁目　電話十番　堀回漕部

朝鮮郵船出帆
○全羅丸　十一月十六日
○京畿丸　十一月廿六日
○黃海丸　十二月十一日
○咸鏡丸　十二月廿一日　釜山發
京城支店及取扱店　松原運送店（電話一七〇番）
○鎭城丸　十一月十六日
○平安丸　十一月廿三日
○鎭城丸　十一月三十日　元山發
○第二錦旋丸　十一月　日
○清丸　十一月廿三日
○平壤丸　十一月　日　元山發
○昌德丸　十一月十日　釜山發
○江陵丸　毎日
○襄陽丸　毎日　釜山發
○三浦丸　十一月十一日　釜山發
○海州丸　○巨濟丸　○慶貴丸　○統營丸　毎日　釜山發
○順天丸　三日目毎ニ　木浦發
○慶興丸　十一月十四日　木浦發
○慶興丸　十一月十二日　木浦發
○公州丸　十一月十六日　木浦發
○宗信丸　十一月十日　仁川發
○江原丸　十一月十八日　仁川發
○麗水丸　十一月十一日
○晉州丸　十一月十七日　仁川發
○全州丸　○南陽丸　毎日午前　仁川發